

対象校No.
注4

学校コード F114310104883
注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 学部の学科の設置
注1

認可

注2
湘南医療大学 薬学部 医療薬学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正後大学設置基準適用)

学校法人湘南ふれあい学園
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	事務部
職名・氏名	シムブチョウ コバヤツツイチロウ 事務部長 小林勝一郎
電話番号	045-821-0111
(夜間)	070-5554-5864
e-mail	pharm@sums.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

薬学部

＜医療薬学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	21
4. 既設大学等の状況	23
5. 教育研究実施組織の状況	24
6. 附帯事項等に対する履行状況等	62
7. その他全般的事項	82

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人湘南ふれあい学園

(2) 大 学 名

湘南医療大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒244-0806 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-10

(本部 : 〒244-0806 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48)

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を () 書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	オオヤシキ フジエ 大屋敷 芙志枝 (平成6年4月)		
学 長	オオヤシキ フジエ 大屋敷 芙志枝 (平成27年4月)		
学 部 長	スズキ ツトム 鈴木 勉 (令和3年4月)		
学科長等			

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

() 書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告する内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和7年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
薬学部 医療薬学科 学士（薬学）	薬学関係	6年	130人	2年次 人 3年次 人 4年次 人	780人		

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）又は（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「－」を選択。）

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	130人	130人	130人	130人	130人	130人	130人	130人	130人	130人	130人	130人	春季入学以外の 入学時期と 入学定員内訳	0.46倍	倍	
志願者数	111人	192人	243人	151人	170人											
受験者数	91人	149人	230人	144人	161人											
合格者数	58人	134人	196人	142人	138人											
B 入学者数	34人	66人	78人	62人	49人											
入学定員超過率 B/A	0.26	0.50	0.60	0.47	0.37											

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「－」を記入してください。
 - ・（ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、（ ）書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
- なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「－」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
- 算出に当たっては、大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況をご確認ください。
- なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
- なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
- ・「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	34 [—] (—)	— [—] (—)	68 [—] (2)	— [—] (—)	83 [—] (4)	— [—] (—)	65 [—] (3)	— [—] (—)	54 [—] (5)	— [—] (—)	編入学生の人数 令和4年度 2年次：33名の内3名 令和5年度 2年次：61名の内1名 3年次：27名の内2名 令和6年度 3年次：54名の内1名 4年次：27名の内2名 令和7年度 4年次：54名の内1名 5年次：27名の内2名
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	33 [—] (—)	— [—] (—)	61 [—] (4)	— [—] (—)	81 [—] (8)	— [—] (—)	61 [—] (9)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	27 [—] (—)	— [—] (—)	54 [—] (3)	— [—] (—)	69 [—] (4)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	27 [—] (—)	— [—] (—)	54 [—] (3)	— [—] (—)	
5 年次									— [—] (—)	— [—] (—)	27 [—] (—)	— [—] (—)	
6 年次											— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	34 [—] (—)	— [—] (—)	101 [—] (2)	— [—] (—)	171 [—] (8)	— [—] (—)	227 [—] (14)	— [—] (—)	265 [—] (21)	— [—] (—)	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留學生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学生数、留學生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	34 人	2 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	2 人	- 人	海外留学(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
令和4年度	104 人	9 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	1 人	- 人	修学意欲の低下(1人)
			令和4年度	8 人	- 人	除籍(1人)、経済的困窮(3人)、進路変更(3人)、心身耗弱(1人)
令和5年度	172 人	6 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	1 人	- 人	進路変更(1人)
			令和4年度	2 人	- 人	進路変更(2人)
			令和5年度	3 人	- 人	進路変更(3人)
令和6年度	227 人	10 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	2 人	- 人	他の教育機関への入学・転学(1人)、就職(1人)
			令和4年度	1 人	- 人	修学意欲の低下(1人)
			令和5年度	1 人	- 人	他の教育機関への入学・転学(1人)
			令和6年度	6 人	- 人	学生個人の心身に関する事情(4人)、就職(1人)、他の教育機関への入学・転学(1人)
令和7年度	265 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
合 計		27 人		27 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{2}{36} = \boxed{5.55} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{9}{113} = \boxed{7.96} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{6}{178} = \boxed{3.37} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{10}{237} = \boxed{4.21} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{265} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜薬学部 医療薬学科＞

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1				1				兼2
	総合英語ⅠB	1後	1				1				兼2
	総合英語ⅡA	2前	1				1				兼2
	総合英語ⅡB	2後	1				1				兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後 1前	1				1				兼1
	英会話A	3前	1				1				兼1
	英会話B	3後	1				1				兼1
	英語Ⅰ(基礎英語)	1前		1							兼1
	英語Ⅱ(医療英語)	2前		1							兼1
	英語Ⅲ(コミュニケーション)	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	6後	1			17	9	8	8	0	兼62
	文学	1・2・3後		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬と毒性学入門	1後		1		1					兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	症候論	1後	2			2					兼5
	社会福祉論	2後	1								兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後	2								兼1
	環境論	1前		1							兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
	放射線概論	1後		1							兼1
	保健行政論	2前		1					1		兼1
	公衆衛生学	2前		1			1		1		兼1
	倫理学	1前		1							兼1
	心理学	1前		2							兼1
	哲学	1後		1							兼1
	社会学	1後		2							兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	ジェンダー論	1後	1								兼1
	小計(41科目)	-	15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎科目	科学計算演習	1前	1			1		1			
	科学英語	4前	1				1				兼1
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	1	1	0	0	兼1
専門科目	薬学入門Ⅰ(薬剤師の使命)	1前	1			1					
	薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学)	1前	1			3	1				
	早期臨床体験実習	1前	1			8	2	4	1		
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1			1					
	後期臨床体験実習	5通	1			7	2	5			
	日本薬局方	4後	1			1	2				
	小計(9科目)	-	10	0	0	9	3	5	1		兼3

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1				1				兼2
	総合英語ⅠB	1後	1				1				兼2
	総合英語ⅡA	2前	1				1				兼2
	総合英語ⅡB	2後	1				1				兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後 1前	1				1				兼1
	英会話A	3前	1				1				兼1
	英会話B	3後	1				1				兼1
	英語Ⅰ(基礎英語)	1前		1			1				兼1
	英語Ⅱ(医療英語)	2前		1							兼1
	英語Ⅲ(コミュニケーション)	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前	1			1					兼1
	チーム医療論	6後	1			17	9	8	8		兼62
	文学	1・2・3前		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬と毒性学入門	1後		1		1					兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	症候論	1後	2			2					兼4
	社会福祉論	2後	1								兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後	2								兼1
	環境論	1前		1							兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
	放射線概論	1後		1							兼1
	保健行政論	2前		1					1		兼1
	公衆衛生学	2前		1			1		1		兼1
	倫理学	1前		1							兼1
	心理学	1前		2							兼1
	哲学	1後		1							兼1
	社会学	1後		2							兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	ジェンダー論	1後	1								兼1
	小計(41科目)	-	15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎科目	科学計算演習	1前	1			1		1			
	科学英語	4前	1				1				兼1
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	1	1	0	0	兼1
専門科目	薬学入門Ⅰ(薬剤師の使命)	1前	1			1					
	薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学)	1前	1			4					
	早期臨床体験実習	1前	1			12	4	6	1		
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1			1					
	後期臨床体験実習	5通	1			9	1	5	1		
	日本薬局方	4後	1			3					
	小計(9科目)	-	10	0	0	12	4	6	1		兼3

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	化学系基礎科学	1前	2					1				
	化学系実習	1後	1			2		2				
	物理系基礎科学	1前	2			1						
	物理化学Ⅰ	1後	2			1						
	分析化学Ⅰ	1後	2			1						
	生物系基礎科学	1前	2				1		1			
	生物系実習	1後	1				1	1	1			
	生化学Ⅰ	1後	2				1		1			
	解剖学	1後	2			1						
	物理化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学Ⅱ	2前	2			1		1				
	分析化学実習	2前	1			1		1				
	有機化学Ⅰ	2前	2			1						
	生化学Ⅱ	2前	2				1		1			
	生化学実習	2前	1				1	1	1			
	生理学	2前	2			1	1					
	微生物学Ⅰ	2前	2			2						
	物理化学Ⅲ	2後	2			1						
	物理化学実習	2後	1			1		1		1		
	有機化学Ⅱ	2後	2			1						
	有機化学実習	2後	1			2		2				
	天然薬物学	2後	2				1					
	生化学Ⅲ	2後	2				1		1			
	生理解剖学実習	2後	1			1	1				兼1	
	微生物学Ⅱ	2後	2			2	1					
	免疫学Ⅰ	2後	2			2	1					
	分析化学Ⅲ	3前	1			1		1				
	分析化学Ⅳ	3前	1			1						
	有機化学Ⅲ	3前	2			1						
	天然薬物学実習	3前	1				1		1			
	微生物学実習	3前	1			2	1	1	1			
	免疫学Ⅱ	3前	1			1	1					
	生化学Ⅳ	3後	1				1		1			
	アドバンスド生物化学	3・6前		1			1					
	香粧品科学	4・6前		1							兼1	
	腫瘍生物学	4・6後		1		1	1					
	感染制御学	6前		1		1	1					
	小計(37科目)	－	53	4	0	8	5	4	3	1	兼2	
		放射化学	2後	2				1				
		機能食品学	2・6後		1							兼1
衛生化学Ⅰ		3前	2				1		1			
医療統計学		3前	1			1						
衛生化学Ⅱ		3後	2				1		1			
衛生化学実習		3後	1				1		1			
衛生化学Ⅲ		4前	2				1					
小計(7科目)		－	10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
薬理学Ⅰ		2後	2			1		1				
薬理学Ⅱ		3前	2			1	1	1				
薬物治療学Ⅰ		3前	2			1		1				
薬理学実習		3前	1			1		1	1			
薬物動態学Ⅰ		3前	2				1					
薬剤学Ⅰ		3前	2				2					
薬物治療学Ⅱ		3後	2			2						
薬物動態学Ⅱ		3後	2				2					
薬剤学Ⅱ		3後	2				2					
病理学概論		4前	2			2					兼7	
症候・診断学		4前	2			1					兼4	
処方解析演習		4前	1			9	5	3	4			
薬物治療学Ⅲ		4前	2			1		1				
医薬品開発学		4前	2			1						
医療安全管理	4前	1			1							
創薬化学	4・6前		1		1		1					
医薬品情報学	4後	2			1							
薬物治療学Ⅳ	4後	2			3							
薬物治療学Ⅴ	4後	2			4		2	1				
漢方治療学	6前	2								兼1		
レギュラトリサイエンス	6前	2			1							
薬物治療学Ⅵ	6後	2			3							
小計(22科目)	－	39	1	0	11	6	5	4	0	兼9		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	化学系基礎科学	1前	2					1				
	化学系実習	1後	1			2		2				
	物理系基礎科学	1前	2			1						
	物理化学Ⅰ	1後	2			1						
	分析化学Ⅰ	1後	2			1						
	生物系基礎科学	1前	2			1						
	生物系実習	1後	1			1		1				
	生化学Ⅰ	1後	2			1						
	解剖学	1後	2			1						
	物理化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学Ⅱ	2前	2			1		1				
	分析化学実習	2前	1			1		1				
	有機化学Ⅰ	2前	2			1						
	生化学Ⅱ	2前	2			1						
	生化学実習	2前	1			1		1				
	生理学	2前	2			1	1					
	微生物学Ⅰ	2前	2			2		1				
	物理化学Ⅲ	2後	2			1						
	物理化学実習	2後	1			1		1				
	有機化学Ⅱ	2後	2			1						
	有機化学実習	2後	1			2		2				
	天然薬物学	2後	2			1						
	生化学Ⅲ	2後	2			1						
	生理解剖学実習	2後	1			1	1					兼1
	微生物学Ⅱ	2後	2			2	1					
	免疫学Ⅰ	2後	2			2	1					
	分析化学Ⅲ	3前	1			1		1				
	分析化学Ⅳ	3前	1			1						
	有機化学Ⅲ	3前	2			1						
	天然薬物学実習	3前	1			1			1			
	微生物学実習	3前	1			2	1	2				
	免疫学Ⅱ	3前	1			1	1					
	生化学Ⅳ	3後	1			1						
	アドバンスド生物化学	3・6前		1		1						兼2
	香粧品科学	4・6前		1								
	腫瘍生物学	4・6後		1		2						
	感染制御学	6前		1		1	1					
	小計(37科目)	－	53	4	0	12	2	4	1	0		兼3
	放射化学	2後	2				1					
	機能食品学	2・6後		1								兼1
	衛生化学Ⅰ	3前	2				1		1			
	医療統計学	3前	1			1						
	衛生化学Ⅱ	3後	2				1		1			
衛生化学実習	3後	1				1		1				
衛生化学Ⅲ	4前	2				1						
小計(7科目)	－	10	1	0	1	1	0	1	0		兼1	
薬理学Ⅰ	2後	2			1		1					
薬理学Ⅱ	3前	2			1	1	1					
薬物治療学Ⅰ	3前	2			1		1					
薬理学実習	3前	1			1		1					
薬物動態学Ⅰ	3前	2			1							
薬剤学Ⅰ	3前	2			1	1						
薬物治療学Ⅱ	3後	2			2							
薬物動態学Ⅱ	3後	2			1	1						
薬剤学Ⅱ	3後	2			1	1						
病理学概論	4前	2			2							
症候・診断学	4前	2			2						兼2	
処方解析演習	4前	1			10	4	2	1			兼3	
薬物治療学Ⅲ	4前	2			1	1	1					
医薬品開発学	4前	2			1							
医療安全管理	4前	1			1							
創薬化学	4・6前		1		1		1					
医薬品情報学	4後	2			1							
薬物治療学Ⅳ	4後	2			3							
薬物治療学Ⅴ	4後	2			4	1	1					
漢方治療学	6前	2									兼1	
レギュラトリサイエンス	6前	2			1							
薬物治療学Ⅵ	6後	2			3							
小計(22科目)	－	39	1	0	12	7	5	1	0		兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	2前	1			8	3	3	2		
	調剤学	3後	2			1	1	1			
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			7	5	4	4		
	看護論	3後	1								兼1
	総合リハビリテーション論	3後	1								兼1
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			7	5	4	4		
	医療薬学チュートリアル演習Ⅱ	4前	1			1		2			兼1
	臨床栄養学	4前		1		1					兼1
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			7	5	4	4		
	コミュニティーファーマシー	4後	1				1				
	ファーマシーマネジメント論	4・6前		1							兼1
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4		
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5		
	地域包括医療論(在宅医療を含む)	6前	1				1				
	セルフメディケーション	6前	1				1				
	老年学	6前	1								兼1
	小計(16科目)	－	35	2	0	17	9	8	8	0	兼6
	薬学総合ブレ研究	3通～4前	2			17	9	8	8	1	
	卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用)	4後～5通	12			17	9	8	8	1	
	卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)	6前	4			17	9	8	8	1	
	総合演習Ⅰ	6前	2			7	5	4	4	1	兼1
	総合演習Ⅱ	6後	2			8	4	4	4		
	インターンシップ実習(課題解決型薬学研究・展開)	4・5・6通			1	1					
	小計(6科目)	－	22	0	1	17	9	8	8	1	兼1
合計(140科目)		－	186	40	1	17	10	8	8	1	兼104
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼任	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	医療薬学チュートリアル 演習Ⅰ	2前	1			10	2	4				
	調剤学	3後	2			1	1	1				
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			9	5	3	1			兼1
	看護論	3後	1									
	総合リハビリテーション 論	3後	1									兼1
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			10	5	3	1			
	医療薬学チュートリアル 演習Ⅱ	4前	1			1		2				兼1
	臨床栄養学	4前		1		1						兼1
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			10	5	3	1			
	コミュニティーファーマ シー	4後	1				1					
	ファーマシーマネジメント 論	4・6前		1								兼1
	薬局実務実習	5通	10			9	3	5	1			
	病院実務実習	5通	10			8	5	3	2			
	地域包括医療論(在宅医 療を含む)	6前	1				1					
	セルフメディケーション	6前	1				1					
	老年学	6前	1									兼1
	小計(16科目)	－	35	2	0	10	5	3	2	0		兼6
	薬学総合ブレ研究	3通～4前	2				20	6	8	3		
	卒業研究Ⅰ(課題解決 型薬学研究・基礎と応 用)	4後～5通	12				20	6	8	3		
	卒業研究Ⅱ(課題解決 型薬学研究・発展)	6前	4				17	9	8	8	1	
	総合演習Ⅰ	6前	2				7	5	4	4	1	兼1
	総合演習Ⅱ	6後	2				8	4	4	4		
	インターンシップ実習(課 題解決型薬学研究・展 開)	4・5・6通			1	1						
	小計(6科目)	－	22	0	1	20	6	8	3	0		兼1
合計(140科目)		－	186	40	1	20	6	8	3	1	兼103	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))												

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1			1					兼1
	総合英語ⅠB	1後	1			1					兼1
	総合英語ⅡA	2前				1					兼1
	総合英語ⅡB	2後	1			1					兼1
	総合英語Ⅲ	5前・後	1			1					兼1
	英会話A	3前	1			1					兼1
	英会話B	3後	1			1					兼1
	英語Ⅰ（基礎英語）	1前		1		1					兼1
	英語Ⅱ（医療英語）	2前		1							兼1
	英語Ⅲ（コミュニケーション）	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前	1			1					兼1
	チーム医療論	6後	1			17	9	8	8		兼62
	文学	1・2・3前		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬と毒性学入門	1後		1		1					兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	症候論	1後	2			2					兼5
	社会福祉論	2後	1								兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後	2								兼1
	環境論	1前		1							兼1
	法学（含日本国憲法）	1前		2							兼1
	放射線概論	1後		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼2
	公衆衛生学	2前		1		1			1		兼1
	倫理学	1前		1							兼1
	心理学	1前		2							兼1
	哲学	1後		1							兼1
	社会学	1後		2							兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	ジェンダー論	1後		1							兼1
	小計（41科目）	－	15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎科目	科学計算演習	1前	1			1		1			
	科学英語	4前	1				1				
	小計（2科目）	－	2	0	0	1	1	1	0	0	
専門科目	薬学入門Ⅰ（薬剤師の使命）	1前	1			1					
	薬学入門Ⅱ（薬と病気の科学）	1前	1			3	1				
	早期臨床体験実習	1前	1			12	4	6	3		
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1			1					
	後期臨床体験実習	5通	1			7	2	5			
	日本薬局方	4後	1			2	1				
	小計（9科目）	－	10	0	0	13	5	7	3		兼3

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1				1				兼2
	総合英語ⅠB	1後	1								兼2
	総合英語ⅡA	2前	1				1				兼2
	総合英語ⅡB	2後	1				1				兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後	1				1				兼1
	英会話A	3前	1				1				兼1
	英会話B	3後	1				1				兼1
	英語Ⅰ（基礎英語）	1前		1			1				兼1
	英語Ⅱ（医療英語）	2前		1							兼1
	英語Ⅲ（コミュニケーション）	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	6後	1			17	9	8	8	0	兼62
	文学	1・2・3前		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬と毒性学入門	1後		1			1				兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	症候論	1後	2				2				兼4
	社会福祉論	2後	1								兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後	2								兼1
	環境論	1前		1							兼1
	法学（含日本国憲法）	1前		2							兼1
	放射線概論	1後		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼2
	公衆衛生学	2前		1			1		1		兼1
	倫理学	1前		1							兼1
	心理学	1前		2							兼1
	哲学	1後		1							兼1
	社会学	1後		2							兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	ジェンダー論	1後		1							兼1
	小計（41科目）	－	15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎科目	科学計算演習	1前	1				1		1		
	科学英語	4前	1				1				兼1
	小計（2科目）	－	2	0	0	1	1	1	0	0	兼1
専門科目	薬学入門Ⅰ（薬剤師の使命）	1前	1				1				
	薬学入門Ⅱ（薬と病気の科学）	1前	1				2	1			兼1
	早期臨床体験実習	1前	1				10	5	6	3	兼1
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1				1				
	後期臨床体験実習	5通	1				7	2	5		
	日本薬局方	4後	1				1	2			
	小計（9科目）	－	10	0	0	11	5	7	3		兼5

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
専門 科目	化学系基礎科学	1前	2					1			
	化学系実習	1後	1			2		2			
	物理系基礎科学	1前	2			1					
	物理化学Ⅰ	1後	2			1					
	分析化学Ⅰ	1後	2			1					
	生物系基礎科学	1前	2				1		1		
	生物系実習	1後	1				1	1	1		
	生化学Ⅰ	1後	2				1		1		
	解剖学	1後	2			1	1				
	物理化学Ⅱ	2前	2			1					
	分析化学Ⅱ	2前	2			1		1			
	分析化学実習	2前	1			1		1			
	有機化学Ⅰ	2前	2			1					
	生化学Ⅱ	2前	2				1		1		
	生化学実習	2前	1				1	1	1		
	生理学	2前	2			1	1				
	微生物学Ⅰ	2前	2			2					
	物理化学Ⅲ	2後	2			1					
	物理化学実習	2後	1			1		1			
	有機化学Ⅱ	2後	2			1					
	有機化学実習	2後	1			2		2			
	天然薬物学	2後	2				1				
	生化学Ⅲ	2後	2				1		1		
	生理解剖学実習	2後	1			1	1				兼1
	微生物学Ⅱ	2後	2			2	1				
	免疫学Ⅰ	2後	2			2	1				
	分析化学Ⅲ	3前	1			1		1			
	分析化学Ⅳ	3前	1			1					
	有機化学Ⅲ	3前	2			1					
	天然薬物学実習	3前	1				1		1		
	微生物学実習	3前	1			2	1	1	1		
	免疫学Ⅱ	3前	1			1	1				
	生化学Ⅳ	3後	1				1		1		
	アドバンスド生物化学	3・6前		1			1				
	香粧品科学	4・6前		1							兼2
	腫瘍生物学	4・6後		1		2					
	感染制御学	6前		1		1	1				
小計(37科目)	－	53	4	0	8	5	4	3	0	兼3	
放射化学	2後	2				1					
機能食品学	2・6後		1							兼1	
衛生化学Ⅰ	3前	2				1		1			
医療統計学	3前	1			1						
衛生化学Ⅱ	3後	2				1		1			
衛生化学実習	3後	1				1		1			
衛生化学Ⅲ	4前	2				1					
小計(7科目)	－	10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
薬理学Ⅰ	2後	2			1		1				
薬理学Ⅱ	3前	2			1	1	1				
薬物治療学Ⅰ	3前	2			1		1				
薬理学実習	3前	1			1		1	1			
薬物動態学Ⅰ	3前	2				1					
薬剤学Ⅰ	3前	2				2					
薬物治療学Ⅱ	3後	2			2						
薬物動態学Ⅱ	3後	2				2					
薬剤学Ⅱ	3後	2				2					
病理学概論	4前	2			2					兼4	
症候・診断学	4前	2			2					兼4	
処方解析演習	4前	1			10	4	2	3			
薬物治療学Ⅲ	4前	2			1	1					
医薬品開発学	4前	2			1						
医療安全管理	4前	1			1						
創薬化学	4・6前		1		1		1				
医薬品情報学	4後	2			1						
薬物治療学Ⅳ	4後	2			3						
薬物治療学Ⅴ	4後	2			4	1	1	1			
漢方治療学	6前	2								兼1	
レギュラトリーサイエンス	6前	2			1						
薬物治療学Ⅵ	6後	2			3						
小計(22科目)	－	39	1	0	12	7	4	3	0	兼8	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	化学系基礎科学	1前	2					1			兼1	
	化学系実習	1後	1			2		2				
	物理系基礎科学	1前	2			1						
	物理化学Ⅰ	1後	2			1						
	分析化学Ⅰ	1後	2			1						
	生物系基礎科学	1前	2				1		1			
	生物系実習	1後	1				1	1	1			
	生化学Ⅰ	1後	2				1		1			
	解剖学	1後	2			1	1					
	物理化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学Ⅱ	2前	2			1		1				
	分析化学実習	2前	1			1		1				
	有機化学Ⅰ	2前	2			1						
	生化学Ⅱ	2前	2				1		1			
	生化学実習	2前	1				1	1	1			
	生理学	2前	2			1	1					
	微生物学Ⅰ	2前	2			2						
	物理化学Ⅲ	2後	2			1						
	物理化学実習	2後	1			1		1				
	有機化学Ⅱ	2後	2			1						
	有機化学実習	2後	1			2		2				
	天然薬物学	2後	2				1					
	生化学Ⅲ	2後	2				1		1			
	生理解剖学実習	2後	1			1	1					
	微生物学Ⅱ	2後	2			2	1					
	免疫学Ⅰ	2後	2			2	1					
	分析化学Ⅲ	3前	1			1		1				
	分析化学Ⅳ	3前	1			1						
	有機化学Ⅲ	3前	2			1						
	天然薬物学実習	3前	1				1		1			
	微生物学実習	3前	1			2	1	1	1			
	免疫学Ⅱ	3前	1			1	1					
	生化学Ⅳ	3後	1				1		1			
	アドバンスド生物化学	3・6前		1			1					
	香粧品科学	4・6前		1								
	腫瘍生物学	4・6後		1		1	1					
	感染制御学	6前		1		1	1					
小計(37科目)	－	53	4	0	8	5	4	3	1	兼2		
	放射化学	2後	2				1				兼1	
	機能食品学	2・6後		1								
	衛生化学Ⅰ	3前	2				1		1		兼1	
	医療統計学	3前	1									
	衛生化学Ⅱ	3後	2				1		1			
	衛生化学実習	3後	1				1		1			
	衛生化学Ⅲ	4前	2				1					
	小計(7科目)	－	10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
		薬理学Ⅰ	2後	2			1		1			兼7 兼4
		薬理学Ⅱ	3前	2			1	1	1			
		薬物治療学Ⅰ	3前	2			1		1			
		薬理学実習	3前	1			1		1			
		薬物動態学Ⅰ	3前	2				1				
		薬剤学Ⅰ	3前	2				2				
薬物治療学Ⅱ		3後	2			2						
薬物動態学Ⅱ		3後	2				2					
薬剤学Ⅱ		3後	2				2					
病理学概論		4前	2			2						
症候・診断学		4前	2			1						
処方解析演習		4前	1			9	5	3	4			
薬物治療学Ⅲ		4前	2			1		1				
医薬品開発学		4前	2			1						
医療安全管理		4前	1			1						
創薬化学		4・6前		1		1		1				
医薬品情報学		4後	2			1						
薬物治療学Ⅳ		4後	2			3						
薬物治療学Ⅴ		4後	2			4		2	1			
漢方治療学		6前	2									
レギュラトリーサイエンス	6前	2			1							
薬物治療学Ⅵ	6後	2			3							
小計(22科目)	－	39	1	0	11	6	5	4	0	兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			専任教員等の配置						兼任 ・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	医療薬学チュートリアル 演習Ⅰ	2前	1			9	2	3	2				
	調剤学	3後	2			1	1	1					
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			10	5	3	3			兼1	
	看護論	3後	1										
	総合リハビリテーション 論	3後	1									兼1	
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			10	5	3	3				
	医療薬学チュートリアル 演習Ⅱ	4前	1			1	1	2				兼1	
	臨床栄養学	4前		1		1						兼1	
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			8	5	3	3				
	コミュニティーファーマ シー	4後	1				1						
	ファーマシーマネジメント 論	4・6前		1								兼1	
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4				
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5				
	地域包括医療論(在宅医 療を含む)	6前	1				1						
	セルフメディケーション 老年学	6前	1				1					兼1	
	小計(16科目)	—	35	2	0	17	9	8	8	0		兼6	
	薬学総合ブレ研究	3通～4前	2				18	9	7	7			
	卒業研究Ⅰ(課題解決 型薬学研究・基礎と応 用)	4後～5通	12				18	9	7	7			
	卒業研究Ⅱ(課題解決 型薬学研究・発展)	6前	4				17	9	8	8	1		
	総合演習Ⅰ	6前	2				7	5	4	4	1		兼1
	総合演習Ⅱ	6後	2				8	4	4	4			
	インターンシップ実習(課 題解決型薬学研究・展 開)	4・5・6通			1	1							
	小計(6科目)	—	22	0	1	18	9	7	7	1		兼1	
合計(140科目)		—	186	40	1	19	9	7	7	1		兼106	
卒業要件及び履修方法													
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))													

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	医療薬学チュートリアル 演習Ⅰ	2前	1			7	3	3	2		兼1	
	調剤学	3後	2			1	1	1				
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			9	5	3	2		兼2	
	看護論	3後	1								兼1	
	総合リハビリテーション 論	3後	1								兼1	
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			7	5	4	4			
	医療薬学チュートリアル 演習Ⅱ	4前	1			1		2			兼1	
	臨床栄養学	4前		1		1					兼1	
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			7	5	4	4			
	コミュニティーファーマ シー	4後	1				1					
	ファーマシーマネジメント 論	4・6前		1							兼1	
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4			
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5			
	地域包括医療論(在宅医 療を含む)	6前	1				1					
	セルフメディケーション 老年学	6前	1				1				兼1	
	小計(16科目)	－	35	2	0	17	9	8	8	0	兼6	
	薬学総合ブレ研究	3通～4前	2				17	9	7	6		兼1
	卒業研究Ⅰ(課題解決 型薬学研究・基礎と応 用)	4後～5通	12				17	9	8	8	1	
	卒業研究Ⅱ(課題解決 型薬学研究・発展)	6前	4				17	9	8	8	1	
	総合演習Ⅰ	6前	2				7	5	4	4	1	兼1
	総合演習Ⅱ	6後	2				8	4	4	4		
	インターンシップ実習(課 題解決型薬学研究・展 開)	4・5・6通			1	1						
	小計(6科目)	－	22	0	1	17	9	8	8	1		兼1
合計(140科目)		－	186	40	1	17	10	8	8	1	兼106	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合 教育 科目	総合英語ⅠA	1前	1			1					兼2
	総合英語ⅠB	1後	1			1					兼2
	総合英語ⅡA	2前	1			1					兼2
	総合英語ⅡB	2後	1			1					兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後 ・6前	1			1					兼1
	英会話A	3前	1			1					兼1
	英会話B	3後	1			1					兼1
	英語Ⅰ（基礎英語）	1前		1							兼1
	英語Ⅱ（医療英語）	2前		1							兼1
	英語Ⅲ（コミュニケーション）	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	6後	1			17	9	8	8	0	兼62
	文学	1・2・3前		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬と毒性学入門	1後		1		1					兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	症候論	1後	2			2					兼4
	社会福祉論	2後	1								兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後	2								兼1
	環境論	1前		1							兼1
	法学（含日本国憲法）	1前		2							兼1
	放射線概論	1後		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼1
	公衆衛生学	2前		1		1			1		兼1
	倫理学	1前		1							兼1
	心理学	1前		2							兼1
	哲学	1後		1							兼1
	社会学	1後		2							兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	ジェンダー論	1後	1								兼1
	小計(41科目)	-	15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎 科目	科学計算演習	1前	1			1		1			
	科学英語	4前	1			1					兼1
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	1	1	0	0	兼1
専門 科目	薬学入門Ⅰ（薬剤師の使命）	1前	1			1					
	薬学入門Ⅱ（薬と病気の科学）	1前	1			2	1				兼1
	早期臨床体験実習	1前	1			6	3	4	3		兼1
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1			1					
	後期臨床体験実習	5通	1			7	2	5			
	日本薬局方	4後	1			1	2				
	小計(9科目)	-	10	0	0	8	3	5	1		兼5

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合 教育 科目	総合英語ⅠA	1前	1				1				兼2
	総合英語ⅠB	1後	1					1			兼2
	総合英語ⅡA	2前	1				1				兼2
	総合英語ⅡB	2後	1				1				兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後 ・6前	1				1				兼1
	英会話A	3前	1				1				兼1
	英会話B	3後	1				1				兼1
	英語Ⅰ（基礎英語）	1前		1							兼1
	英語Ⅱ（医療英語）	2前		1							兼1
	英語Ⅲ（コミュニケーション）	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	6後	1			17	9	8	8	0	兼62
	文学	1・2・3後		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬と毒性学入門	1後		1		1					兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	症候論	1後	2			2					兼5
	社会福祉論	2後	1								兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後	2								兼1
	環境論	1前		1							兼1
	法学（含日本国憲法）	1前		2							兼1
	放射線概論	1後		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼1
	公衆衛生学	2前		1			1		1		兼1
	倫理学	1前		1							兼1
	心理学	1前		2							兼1
	哲学	1後		1							兼1
	社会学	1後		2							兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	ジェンダー論	1後	1								兼1
	小計(41科目)	-	15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎 科目	科学計算演習	1前	1			1		1			
	科学英語	4前	1			1					兼1
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	1	1	0	0	兼1
専門 科目	薬学入門Ⅰ（薬剤師の使命）	1前	1			1					
	薬学入門Ⅱ（薬と病気の科学）	1前	1				3	1			
	早期臨床体験実習	1前	1				7	2	4	1	兼2
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1			1					
	後期臨床体験実習	5通	1			7	2	5			
	日本薬局方	4後	1			1	2				
	小計(9科目)	-	10	0	0	8	3	5	1		兼5

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
専門 科目	化学系基礎科学	1前	2					1			
	化学系実習	1後	1			2		2			
	物理系基礎科学	1前	2			1					
	物理化学Ⅰ	1後	2			1					
	分析化学Ⅰ	1後	2			1					
	生物系基礎科学	1前	2				1		1		
	生物系実習	1後	1				1	1	1		
	生化学Ⅰ	1後	2				1		1		
	解剖学	1後	2			1	1				
	物理化学Ⅱ	2前	2			1					
	分析化学Ⅱ	2前	2			1		1			
	分析化学実習	2前	1			1		1			
	有機化学Ⅰ	2前	2			1					
	生化学Ⅱ	2前	2				1		1		
	生化学実習	2前	1				1	1	1		
	生理学	2前	2			1	1				
	微生物学Ⅰ	2前	2			2					
	物理化学Ⅲ	2後	2			1					
	物理化学実習	2後	1			1		1		1	
	有機化学Ⅱ	2後	2			1					
	有機化学実習	2後	1			2		2			
	天然薬物学	2後	2				1				
	生化学Ⅲ	2後	2				1		1		
	生理解剖学実習	2後	1			1	1				兼1
	微生物学Ⅱ	2後	2			2	1				
	免疫学Ⅰ	2後	2			2	1				
	分析化学Ⅲ	3前	1			1		1			
	分析化学Ⅳ	3前	1			1					
	有機化学Ⅲ	3前	2			1					
	天然薬物学実習	3前	1				1		1		
	微生物学実習	3前	1			2	1	1	1		
	免疫学Ⅱ	3前	1			1	1				
	生化学Ⅳ	3後	1				1		1		
	アドバンスド生物化学	3・6前		1			1				
	香粧品科学	4・6前		1							兼1
	腫瘍生物学	4・6後		1		1	1				
	感染制御学	6前		1		1	1				
小計(37科目)	－	53	4	0	8	5	4	3	1	兼2	
放射化学	2後	2				1					
機能食品学	2・6後		1							兼1	
衛生化学Ⅰ	3前	2				1		1			
医療統計学	3前	1			1						
衛生化学Ⅱ	3後	2				1		1			
衛生化学実習	3後	1				1		1			
衛生化学Ⅲ	4前	2				1					
小計(7科目)	－	10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
薬理学Ⅰ	2後	2			1		1				
薬理学Ⅱ	3前	2			1	1	1				
薬物治療学Ⅰ	3前	2			1		1				
薬理学実習	3前	1			1		1	1			
薬物動態学Ⅰ	3前	2				1					
薬剤学Ⅰ	3前	2				2					
薬物治療学Ⅱ	3後	2			2						
薬物動態学Ⅱ	3後	2				2					
薬剤学Ⅱ	3後	2				2					
病理学概論	4前	2			2					兼7	
症候・診断学	4前	2			1					兼4	
処方解析演習	4前	1			9	5	3	4			
薬物治療学Ⅲ	4前	2			1		1				
医薬品開発学	4前	2			1						
医療安全管理	4前	1			1						
創薬化学	4・6前		1		1		1				
医薬品情報学	4後	2			1						
薬物治療学Ⅳ	4後	2			3						
薬物治療学Ⅴ	4後	2			4		2	1			
漢方治療学	6前	2								兼1	
レギュラトリーサイエンス	6前	2			1						
薬物治療学Ⅵ	6後	2			3						
小計(22科目)	－	39	1	0	11	6	5	4	0	兼9	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	化学系基礎科学	1前	2					1			兼1	
	化学系実習	1後	1			2		2				
	物理系基礎科学	1前	2			1						
	物理化学Ⅰ	1後	2			1						
	分析化学Ⅰ	1後	2			1						
	生物系基礎科学	1前	2				1		1			
	生物系実習	1後	1				1	1	1			
	生化学Ⅰ	1後	2				1		1			
	解剖学	1後	2			1						
	物理化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学Ⅱ	2前	2			1		1				
	分析化学実習	2前	1			1		1				
	有機化学Ⅰ	2前	2			1						
	生化学Ⅱ	2前	2				1		1			
	生化学実習	2前	1			1		1	1			
	生理学	2前	2			1	1					
	微生物学Ⅰ	2前	2			2						
	物理化学Ⅲ	2後	2			1						
	物理化学実習	2後	1			1		1		1		
	有機化学Ⅱ	2後	2			1						
	有機化学実習	2後	1			2		2				
	天然薬物学	2後	2				1					
	生化学Ⅲ	2後	2				1		1			
	生理解剖学実習	2後	1			1	1					
	微生物学Ⅱ	2後	2			2	1					
	免疫学Ⅰ	2後	2			2	1					
	分析化学Ⅲ	3前	1			1		1				
	分析化学Ⅳ	3前	1			1						
	有機化学Ⅲ	3前	2			1						
	天然薬物学実習	3前	1				1		1			
	微生物学実習	3前	1			2	1	1	1			
	免疫学Ⅱ	3前	1			1	1					
	生化学Ⅳ	3後	1				1		1			
	アドバンスド生物化学	3・6前		1			1					
	香粧品科学	4・6前		1								
	腫瘍生物学	4・6後		1		1	1					
	感染制御学	6前		1		1	1					
小計(37科目)	－	53	4	0	8	5	4	3	1	兼2		
	放射化学	2後	2				1				兼1	
	機能食品学	2・6後		1								
	衛生化学Ⅰ	3前	2				1		1			
	医療統計学	3前	1			1						
	衛生化学Ⅱ	3後	2				1		1			
	衛生化学実習	3後	1				1		1			
	衛生化学Ⅲ	4前	2				1					
	小計(7科目)	－	10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
		薬理学Ⅰ	2後	2			1		1			兼7 兼4
		薬理学Ⅱ	3前	2			1	1	1			
		薬物治療学Ⅰ	3前	2			1		1			
		薬理学実習	3前	1			1		1	1		
		薬物動態学Ⅰ	3前	2				1				
		薬剤学Ⅰ	3前	2				2				
薬物治療学Ⅱ		3後	2			2						
薬物動態学Ⅱ		3後	2				2					
薬剤学Ⅱ		3後	2				2					
病理学概論		4前	2			2						
症候・診断学		4前	2			1						
処方解析演習		4前	1			9	5	3	4			
薬物治療学Ⅲ		4前	2			1		1				
医薬品開発学		4前	2			1						
医療安全管理		4前	1			1						
創薬化学		4・6前		1		1		1				
医薬品情報学		4後	2			1						
薬物治療学Ⅳ		4後	2			3						
薬物治療学Ⅴ		4後	2			4		2	1			
漢方治療学		6前	2									
レギュラトリーサイエンス	6前	2			1							
薬物治療学Ⅵ	6後	2			3							
小計(22科目)	－	39	1	0	11	6	5	4	0	兼9		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	医療薬学チュートリアル 演習Ⅰ	2前	1			7	3	3	2		兼1	
	調剤学	3後	2			1	1	1				
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			7	5	4	4			
	看護論	3後	1								兼1	
	総合リハビリテーション 論	3後	1								兼1	
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			7	5	4	4			
	医療薬学チュートリアル 演習Ⅱ	4前	1			1		2			兼1	
	臨床栄養学	4前		1		1					兼1	
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			7	5	4	4			
	コミュニティーファーマ シー	4後	1				1					
	ファーマシーマネジメント 論	4・6前		1							兼1	
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4			
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5			
	地域包括医療論(在宅医 療を含む)	6前	1				1					
	セルフメディケーション	6前	1				1					
	老年学	6前	1								兼1	
	小計(16科目)	－	35	2	0	17	9	8	8	0	兼6	
	薬学総合ブレ研究	3通～4前	2				17	9	8	8	1	
	卒業研究Ⅰ(課題解決 型薬学研究・基礎と応 用)	4後～5通	12				17	9	8	8	1	
	卒業研究Ⅱ(課題解決 型薬学研究・発展)	6前	4				17	9	8	8	1	
	総合演習Ⅰ	6前	2				7	5	4	4	1	兼1
	総合演習Ⅱ	6後	2				8	4	4	4		
	インターンシップ実習(課 題解決型薬学研究・展 開)	4・5・6通			1	1						
	小計(6科目)	－	22	0	1	17	9	8	8	1	1	兼1
合計(140科目)		－	186	40	1	17	10	8	8	1	兼106	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))												

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	医療薬学チュートリアル 演習Ⅰ	2前	1			8	3	3	2		
	調剤学	3後	2			1	1	1			
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			7	5	4	4		
	看護論	3後	1								兼1
	総合リハビリテーション 論	3後	1								兼1
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			7	5	4	4		
	医療薬学チュートリアル 演習Ⅱ	4前	1			1		2			兼1
	臨床栄養学	4前		1		1					兼1
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			7	5	4	4		
	コミュニティーファーマ シー	4後	1				1				
	ファーマシーマネジメント 論	4・6前		1							兼1
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4		
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5		
	地域包括医療論(在宅医 療を含む)	6前	1				1				
	セルフメディケーション	6前	1				1				
	老年学	6前	1								兼1
	小計(16科目)	—	35	2	0	17	9	8	8	0	兼6
	薬学総合ブレ研究	3通～4前	2			17	9	8	8	1	
	卒業研究Ⅰ(課題解決 型薬学研究・基礎と応 用)	4後～5通	12			17	9	8	8	1	
卒業研究Ⅱ(課題解決 型薬学研究・発展)	6前	4			17	9	8	8	1		
総合演習Ⅰ	6前	2			7	5	4	4	1	兼1	
総合演習Ⅱ	6後	2			8	4	4	4			
インターンシップ実習(課 題解決型薬学研究・展 開)	4・5・6通			1	1						
小計(6科目)	—	22	0	1	17	9	8	8	1	兼1	
合計(140科目)		—	186	40	1	17	10	8	8	1	兼106
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任・兼担教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼担」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼担」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。
(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例：記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

・教育の充実のため、「早期臨床体験」の教員配置を「教授8、准教授2、講師4、助教1」から「教授7、准教授2、講師4、助教1、兼2」に変更。

【令和4年度】

・配当年次の誤記により、文学を「1・2・3後」から「1・2・3前」に変更。
・専任教員の就任年月の変更のため、「薬学入門Ⅱ」の教員配置を「教授3、准教授1」から「教授2、准教授1、兼1」に変更。
・教育の充実のため、「早期臨床体験」の教員配置を「教授7、准教授2、講師4、助教1」から「教授6、准教授3、講師4、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「解剖学」の教員配置を「教授1」から「教授1、准教授1」に変更。

【令和5年度】

・教育の充実のため、「英語Ⅰ（基礎英語）」の専任教員等の配置を「兼1」から「准教授1」に変更。
・教育の充実のため、「薬と毒性学入門」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1、兼1」に変更。
・教員の負担軽減のため、「保健行政論」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
・教育の充実のため、「早期臨床体験実習」の専任教員等の配置を「教授6、准教授3、講師4、助教3」から「教授10、准教授5、講師6、助教3、兼1」に変更。
・教員の自己都合等により、「物理化学実習」専任教員等の配置のうち「助手1」を「助手0」に変更。
・教員の就任時期の延期により、「医療統計学」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼1」に変更。
・教員の自己都合等により、「薬理学実習」の専任教員等の配置のうち「助教1」を「助教0」に変更。
・教育の充実のため、「実務実習事前学習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授7、准教授5、講師4、助教4」を「教授9、准教授5、講師3、助教2、兼2」に変更。
・教員の自己都合等により、「薬学総合ブレ研究」の専任教員等の配置のうち「講師8、助教8、助手1」を「講師7、助教6、兼1」に変更。

【令和6年度】

・教育の充実のため、「コミュニケーション論」の専任教員等の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
・教育の充実のため、「早期臨床体験実習」の専任教員等の配置を「教授10、准教授5、講師6、助教3、兼1」を「教授12、准教授4、講師6、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「日本薬局方」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授2、准教授1」に変更。
・教員の負担軽減のため、「香粧品科学」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
・教育の充実のため、「腫瘍生物学」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「教授2」に変更。
・教員の自己都合等により、「病理学概論」の専任教員等の配置のうち「兼7」を「兼4」に変更。
・教員の負担軽減のため、「症候・診断学」の専任教員等の配置のうち「教授1」から「教授2」に変更。
・教員の自己都合等により、「処方解析演習」の専任教員等の配置を「教授9、准教授5、講師3、助教4」から「教授10、准教授4、講師2、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「薬物治療学Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授1、講師1」から「教授1、准教授1」に変更。
・教育の充実のため、「薬物治療学Ⅴ」の専任教員等の配置を「教授4、講師2、助教1」から「教授4、准教授1、講師1、助教1」に変更。
・教育の就任時期の延期および教員の昇任により、「医療薬学チュートリアル演習Ⅰ」の専任教員等の配置のうち「教授7、准教授3、兼1」を「教授9、准教授2、兼0」に変更。
・教育の充実のため、「実務実習事前学習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授9、准教授5、講師3、助教2、兼2」から「教授10、准教授5、講師3、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「実務実習事前学習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授7、准教授5、講師4、助教4」から「教授10、准教授5、講師3、助教3」に変更。
・教員の自己都合等により、「実務実習事前学習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授7、准教授5、講師4、助教4」から「教授8、准教授5、講師3、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「薬学総合ブレ研究」の専任教員等の配置を「教授17、准教授9、講師7、助教6、兼1」から「教授18、准教授9、講師7、助教7」に変更。
・教員の自己都合等により、「卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）」の専任教員等の配置を「教授17、准教授9、講師8、助教8、助手1」から「教授18、准教授9、講師7、助教7」に変更。

【令和7年度】

・教育効果を高めるため、「総合英語ⅠA」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更。
・教育効果を高めるため、「総合英語ⅠB」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更。
・教育効果を高めるため、「総合英語ⅡA」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更。
・教育効果を高めるため、「総合英語ⅡB」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更。
・授業運営上の都合により、「総合英語Ⅲ」の兼任・兼任を「1」から「0」に変更。
・教育効果を高めるため、「英会話A」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更。
・教育効果を高めるため、「英会話B」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更。
・授業運営上の都合により、「コミュニケーション論」の兼任・兼任を「1」から「0」に変更。
・授業運営上の都合により、「症候論」の兼任・兼任を「5」から「4」に変更。
・授業運営上の都合により、「保健行政論」の兼任・兼任を「1」から「0」に変更。
・教員の職位変更のため、「薬学入門Ⅱ（薬と病気の科学）」の教授を「3」から「4」に、准教授を「1」から「0」に変更。
・教員の自己都合等により、「早期臨床体験実習」の助教を「3」から「1」に変更。
・教育効果を高めるため、「後期臨床体験実習」の教授を「7」から「9」に、准教授を「2」から「1」に、助教を「0」から「1」に変更。
・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「生物系基礎科学」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に、助教を「1」「0」に変更。
・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「生物系実習」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に、助教を「1」「0」に変更。
・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「生化学Ⅰ」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に、助教を「1」「0」に変更。
・専任教員等の配置数の誤記のため、「解剖学」の准教授を「1」から「0」に変更。
・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「生化学Ⅱ」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に、助教を「1」「0」に変更。
・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「生化学実習」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に、助教を「1」「0」に変更。
・教育効果を高めるため、「微生物学Ⅰ」の講師を「0」から「1」に変更。
・教員の職位変更のため、「天然薬物学」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に変更。
・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「生化学Ⅲ」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に、助教を「1」「0」に変更。
・教員の職位変更のため、「天然薬物学実習」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に変更。
・教育効果を高めるため、「微生物学実習」の講師を「1」から「2」に、助教を「1」から「0」に変更。
・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「生化学Ⅳ」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に、助教を「1」「0」に変更。
・教員の職位変更のため、「アドバンスド生物化学」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に変更。
・授業運営上の都合により、「薬理学実習」の助教を「1」から「0」に変更。
・教員の職位変更のため、「薬物動態学Ⅰ」の教授を「0」から「1」に、准教授を「1」から「0」に変更。
・教員の職位変更のため、「薬剤学Ⅰ」の教授を「0」から「1」に、准教授を「2」から「1」に変更。
・教員の職位変更のため、「薬物動態学Ⅱ」の教授を「0」から「1」に、准教授を「2」から「1」に変更。

- ・教員の職位変更のため、「薬剤学Ⅱ」の教授を「0」から「1」に、准教授を「2」から「1」に変更。
- ・授業運営上の都合により、「病理学概論」の兼任・兼担を「4」から「2」に変更。
- ・授業運営上の都合により、「症候・診断学」の兼任・兼担を「4」から「3」に変更。
- ・授業運営上の都合により、「処方解析演習」の助教を「3」から「1」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「薬物治療学Ⅲ」の講師を「0」から「1」に変更。
- ・授業運営上の都合により、「薬物治療学Ⅴ」の助教を「1」から「0」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「医療薬学チュートリアル演習Ⅰ」の教授を「9」から「10」に、講師を「3」から「4」に、助教を「2」から「0」に変更。
- ・授業運営上の都合により、「実務実習事前学習Ⅰ」の教授を「10」から「9」に、助教を「3」から「1」に変更。
- ・授業運営上の都合により、「実務実習事前学習Ⅱ」の助教を「3」から「1」に変更。
- ・専任教員等の配置数の誤記のため、「医療薬学チュートリアル演習Ⅱ」の准教授を「1」から「0」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「実務実習事前学習Ⅲ」の教授を「8」から「10」に、助教を「3」から「1」に変更。
- ・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「薬局実務実習」の教授を「6」から「9」に、准教授を「5」から「3」に、講師を「4」から「5」に、助教を「4」から「1」に変更。
- ・授業運営上の都合により、「病院実務実習」の准教授を「4」から「5」に、講師を「4」から「3」に、助教を「5」から「2」に変更。
- ・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「薬学総合ブレ研究」の教授を「18」から「20」に、准教授を「9」から「6」に、講師を「7」から「8」に、助教を「7」から「3」に変更。
- ・教員の職位変更および授業運営上の都合により、「卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）」の教授を「18」から「20」に、准教授を「9」から「6」に、講師を「7」から「8」に、助教を「7」から「3」に変更。

- (注)・ 2 (1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
- 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準（令和4年10月1日施行）の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合（例：「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更）や、兼任・兼担教員から基幹教員以外の教員に変更した場合（例：「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更）については、記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
103 科目	36 科目	1 科目	140 科目	103 科目 []	36 科目 []	1 科目 []	140 科目 []	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1 科目減の場合：△ 1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{140} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 湘南医療大学保健医療学 部（必要面積6,600㎡） と共用 自己所有面積26,830.02 ㎡ 借用面積：28,288.78㎡ 校舎敷地 6,629.41㎡ 運動場用地 1,252.57㎡ 借用期間： 校舎敷地 平成25年7月から22年9ヶ 月 令和3年4月から30年 運動場用地 平成27年4月から20年 (3) 横浜山手キャンパス設置 に伴う増加（4） 藤沢キャンパス設置に伴 う校舎敷地の増加。その 他（薬用植物園）の誤記 による再算出（7）
	校 舎 敷 地	63,729.47 ㎡ 64,803.23 ㎡ 53,866.23 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	63,729.47 ㎡ 64,803.23 ㎡ 53,866.23 ㎡	
	運動場用地	1,252.57 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	1,252.57 ㎡	
	小 計	64,982.04 ㎡ 66,055.80 ㎡ 55,118.80 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	64,982.04 ㎡ 66,055.80 ㎡ 55,118.80 ㎡	
	そ の 他	2,017.56 ㎡ 400.00 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	2,017.56 ㎡ 400.00 ㎡	
	合 計	66,999.60 ㎡ 66,455.80 ㎡ 55,518.80 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	66,999.60 ㎡ 66,455.80 ㎡ 55,518.80 ㎡	
(2) 校 舎	専 用			共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 湘南医療大学保健医療学 部（必要面積6,753㎡） と共用 ①借用面積：699.70㎡ ①借用期間：平成27年4 月から20年 ②借用面積：1,026.05㎡ ②借用期間：平成31年4 月から20年 大学院専用 51.31㎡ ③借用面積：11,134.27 ㎡ ③借用期間：令和3年4月 から30年間
		37,210.29 ㎡ 35,607.98 ㎡ 26,805.46 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	37,210.29 ㎡ 35,607.98 ㎡ 26,805.46 ㎡	
		(11,013.46 ㎡) (22,728.85 ㎡) (15,671.19 ㎡)	(0.00 ㎡)	(0.00 ㎡)	(11,013.46 ㎡) (22,728.85 ㎡) (15,671.19 ㎡)	コロナの影響で校舎建設 が遅れたため 建築等設置計画変更書添 付 (添付資料①) (3) 横浜山手キャンパス設置 に伴う増加 (4) 藤沢キャンパス設置に伴 う増加 (7)
(3) 教室・教員研究室		教 室	26室	教員研究室	39室	A C対象学部として算出 (4)

(4)	新設学部等の 名称	図 書		学術雑誌		機械・器具	標本	学部単位で特定不能なため、大学共用分（学部と研究科）の合計数 電子ジャーナル 37,825タイトル 3,085誌 閲覧可 コロナの影響で校舎建設が遅れたため 既存学部で購入予定だった図書・機械・器具が変更になったため （3） 機械・器具以外は学部単位で特定不能なため、大学共用分（学部と研究科）の合計数 機械・器具はＡＣ対象学部として算出（４） ＡＣ対象学部として算出。ただし電子ジャーナルは学部単位で特定不能なため、大学共用分（学部と研究科）の合計数 （５） ＡＣ対象学部として算出。ただし電子ジャーナルは学部単位で特定不能なため、大学共用分（学部と研究科）の合計数 （６） 電子ジャーナルはＡＣ対象学部での閲覧可能数 （７）	
		〔うち外国書〕	電子図書	〔うち外国書〕	電子ジャーナル				
		冊	〔うち外国書〕	種	〔うち外国書〕	点	点		
		薬学部	4,036 [312] 3,492 [298] 3,181 [294] 19,462 [1,236] 19,043 [1,037] 20,854 [956] (4,036 [312]) (3,492 [298]) (3,181 [294]) (19,462 [1,236]) (19,043 [1,037]) (20,854 [956])	47 [0]	56 [3] 47 [1] 15 [0] 323 [48] 323 [48] 338 [58] (56 [3]) (47 [1]) (15 [0]) (323 [48]) (323 [48]) (338 [58])	870 [870] 29 [27] 22 [20] 12 [7] 13 [10] (870 [870]) (29 [27]) (22 [20]) (12 [7]) (13 [10])	9,776 9,726 21,360 21,429 (7,249) (9,776) (9,726) (17,699) (15,513)		300 58 102 (102) (58)
計	4,036 [312] 3,492 [298] 3,181 [294] 19,462 [1,236] 19,043 [1,037] 20,854 [956] (4,036 [312]) (3,492 [298]) (3,181 [294]) (19,462 [1,236]) (19,043 [1,037]) (20,854 [956])	47 [0]	56 [3] 47 [1] 15 [0] 323 [48] 323 [48] 338 [58] (56 [3]) (47 [1]) (15 [0]) (323 [48]) (323 [48]) (338 [58])	870 [870] 29 [27] 22 [20] 12 [7] 13 [10] (870 [870]) (29 [27]) (22 [20]) (12 [7]) (13 [10])	9,776 9,726 21,360 21,429 (7,249) (9,776) (9,726) (17,699) (15,513)	300 58 102 (102) (58)			
(5) スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体（３）	
						637.07 ㎡			
(6)	経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体 大学全体：図書購入費は、電子ジャーナル、データベースを含む コロナの影響で校舎建設が遅れたため（３） ＡＣ対象学部として算出（４）
		教員１人当り研究費等	450千円	450千円	図書購入費	14,140千円	11,524千円 11,670千円	10,000千円	
		共同研究費等	4,000千円	4,000千円	設備購入費	1,031,842千円 661,733千円	606,074千円 975,060千円	10,000千円	
	学生１人当り納付金	第１年次 2,280千円	第２年次 1,950千円	第３年次 1,950千円	第４年次 1,950千円	第５年次 1,950千円	第６年次 1,950千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要			寄附金収入、補助金収入、雑収入等					

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）又は（その1の3）に準じて作成してください。

（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び

「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。）

・「（4）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、

その理由及び報告年度「（6）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・校舎等建物の計画の変更（校舎の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・高等専門学校については「（3）教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。

・国立大学については「（6）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	湘 南 医 療 大 学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考			
保健医療学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		令和4年度から入学定員変更（80→140）			
看護学科	4	220	—	880	—	1.02		—	平成27	—				
	4	140	—	560	学士 (看護学)	1.02		令和4	平成27	1-2年次 神奈川県横浜市中区山手町27				
リハビリテーション学科	4	80	—	320	—	1.01		—	平成27	3-4年次 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48				
理学療法学専攻	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	1.08		—	平成27	同上				
作業療法学専攻	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.96		—	平成27	同上	令和3年度設置			
薬学部	6	130	—	650	—	0.40		—	令和3	—				
医療薬学科	6	130	—	650	学士 (薬学)	0.40		—	令和3	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-10				
大学全体	—	350	—	1530	—	—		—	—	—				

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「—」とした上で、「非表示」設定としてください。

・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。

履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。

開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。

算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」

第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。

なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。

詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

(1) 一① 担当教員表

專任：		
兼租：		

24

[illegible]

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	羽生 貞観 (54) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）	兼任	教授	羽生 貞観 (54) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	教授	東館 雅文 (73) ＜令和6年4月＞ 医学博士	兼任	教授	東館 雅文 (71) ＜令和6年4月＞ 医学博士	兼任	教授	東館 雅文 (72) ＜令和6年4月＞ 医学博士	兼任	教授	東館 雅文 (73) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		チーム医療論 病理学概論			チーム医療論 病理学概論			チーム医療論 病理学概論			チーム医療論 病理学概論
兼任	教授	望月 聡一郎 (56) ＜令和4年4月＞ 医療政策学修士	兼任	教授	望月 聡一郎 (53) ＜令和4年4月＞ 医療政策学修士						
		チーム医療論 保健行政論			チーム医療論 保健行政論						
兼任	准教授	斉藤（加藤）琴子 (54) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）	兼任	准教授	斉藤（加藤）琴子 (50) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）	兼任	准教授	斉藤（加藤）琴子 (51) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）	兼任	准教授	斉藤（加藤）琴子 (52) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論
兼任	准教授	櫻井 好美 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）	兼任	准教授	櫻井 好美 (45) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）	兼任	准教授	櫻井 好美 (46) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）	兼任	准教授	櫻井 好美 (47) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論
兼任	准教授	澤井 美奈子 (53) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）	兼任	准教授	澤井 美奈子 (54) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）	兼任	准教授	澤井 美奈子 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）	兼任	准教授	澤井 美奈子 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論
兼任	准教授	塩田 美佐代 (67) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	准教授	塩田 美佐代 (63) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	高畠 有理子 (55) ＜令和8年4月＞ 修士（社会学）	兼任	准教授	高畠 有理子 (51) ＜令和8年4月＞ 修士（社会学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	土師 しのぶ (54) ＜令和8年5月＞ 修士（看護学）	兼任	准教授	土師 しのぶ (50) ＜令和8年5月＞ 修士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	森尾 裕志 (51) ＜令和8年4月＞ 修士（リハビリテーション）	兼任	准教授	森尾 裕志 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（リハビリテーション）	兼任	准教授	森尾 裕志 (48) ＜令和8年4月＞ 修士（リハビリテーション）	兼任	准教授	森尾 裕志 (49) ＜令和8年4月＞ 修士（リハビリテーション）
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論
兼任	准教授	渡邊 知佳子 (63) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）									
		チーム医療論									
兼任	講師	菊池 有紀 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）									
		チーム医療論									
兼任	講師	草野 明 (63) ＜令和8年4月＞ 修士（認知科学）									
		チーム医療論									
兼任	講師	久保田 清子 (55) ＜令和8年4月＞ 修士（保健学）	兼任	講師	久保田 清子 (52) ＜令和8年4月＞ 修士（保健学）	兼任	講師	久保田 清子 (53) ＜令和8年4月＞ 修士（保健学）	兼任	講師	久保田 清子 (54) ＜令和8年4月＞ 修士（保健学）
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論
兼任	講師	櫻井 友子 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	櫻井 友子 (43) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	櫻井 友子 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	櫻井 友子 (45) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論
兼任	講師	須藤 康介 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（作業療法学）	兼任	講師	須藤 康介 (46) ＜令和8年4月＞ 修士（作業療法学）	兼任	講師	須藤 康介 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（作業療法学）			
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			
兼任	講師	鈴木 秀樹 (54) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	鈴木 秀樹 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	講師	陶山 克洋 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	陶山 克洋 (40) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	陶山 克洋 (41) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	陶山 克洋 (42) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	中尾 陽光 (46) ＜令和8年4月＞ 博士（体育科学） チーム医療論	兼任	講師	中尾 陽光 (46) ＜令和8年4月＞ 博士（体育科学） チーム医療論	兼任	講師	中尾 陽光 (47) ＜令和8年4月＞ 博士（体育科学） チーム医療論	兼任	講師	中尾 陽光 (48) ＜令和8年4月＞ 博士（体育科学） チーム医療論
兼任	講師	三川 年正 (56) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学） チーム医療論	兼任	講師	三川 年正 (52) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学） チーム医療論	兼任	講師	三川 年正 (53) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学） チーム医療論	兼任	講師	三川 年正 (54) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学） チーム医療論
兼任	講師	光全 正官 (59) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学） チーム医療論	兼任	講師	光全 正官 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学） チーム医療論						
兼任	講師	矢萩 実幸 (62) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論									
兼任	講師	山崎 真帆 (53) ＜令和8年4月＞ 修士（経済学） チーム医療論	兼任	講師	山崎 真帆 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（経済学） チーム医療論	兼任	講師	山崎 真帆 (51) ＜令和8年4月＞ 修士（経済学） チーム医療論	兼任	講師	山崎 真帆 (52) ＜令和8年4月＞ 修士（経済学） チーム医療論
兼任	助教	網谷 奈央 (38) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	網谷 奈央 (38) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	網谷 奈央 (40) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	網谷 奈央 (41) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論
兼任	助教	石橋 史子 (48) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	石橋 史子 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	石橋 史子 (45) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	石橋 史子 (46) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論
兼任	助教	市川 砂織 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	市川 砂織 (40) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	市川 砂織 (41) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	市川 砂織 (42) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論
兼任	助教	伊東 春美 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（メディアデザイン学） チーム医療論									
兼任	助教	稲垣 尚美 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（教育学） チーム医療論	兼任	助教	稲垣 尚美 (46) ＜令和8年4月＞ 修士（教育学） チーム医療論	兼任	助教	稲垣 尚美 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（教育学） チーム医療論			
兼任	助教	大胡 晴香 (39) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	大胡 晴香 (35) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論						
兼任	助教	岡 多恵 (57) ＜令和8年4月＞ 修士（がん看護学） チーム医療論	兼任	講師	岡 多恵 (53) ＜令和8年4月＞ 修士（がん看護学） チーム医療論	兼任	講師	岡 多恵 (54) ＜令和8年4月＞ 修士（がん看護学） チーム医療論	兼任	講師	岡 多恵 (55) ＜令和8年4月＞ 修士（がん看護学） チーム医療論
兼任	助教	倉橋 悠子 (46) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	倉橋 悠子 (42) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	倉橋 悠子 (43) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	倉橋 悠子 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論
兼任	助教	黒田 由香理 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	黒田 由香理 (46) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	黒田 由香理 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	黒田 由香理 (48) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論
兼任	助教	後藤 光世 (58) ＜令和8年4月＞ 修士（老年学） チーム医療論									
兼任	助教	下田 栄次 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学） チーム医療論	兼任	助教	下田 栄次 (43) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学） チーム医療論	兼任	助教	下田 栄次 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学） チーム医療論	兼任	助教	下田 栄次 (45) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学） チーム医療論
兼任	助教	高橋 真由美 (51) ＜令和8年5月＞ 修士（教育学） チーム医療論									
兼任	助教	玉田 聡史 (36) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論	兼任	助教	玉田 聡史 (32) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学） チーム医療論						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師	韓国語	金 美瑛 (42) ＜令和3年4月＞ 修士
兼任 講師	倫理学 生命倫理学 生命・医療倫理学	小館 貴幸 (48) ＜令和3年4月＞ 修士（哲学）
兼任 講師	香粧品科学	小林 雄輔 (55) ＜令和6年4月＞ 修士（薬学）
兼任 講師	文学	近藤 正臣 (75) ＜令和3年4月＞ 文学士
兼任 講師	機能食品学	斉藤 貴一 (66) ＜令和4年4月＞ 博士（薬学）
兼任 講師	総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語Ⅲ 英会話A 英会話B 科学英語	Dax Thomas (46) ＜令和3年4月＞ Master of Arts
兼任 講師	レクリエーションスポーツ	富田 エミ (46) ＜令和3年4月＞ 修士（スポーツ健康科学）
兼任 講師	法学（含日本国憲法）	長岐 郁也 (47) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
兼任 講師	コミュニケーション論	長澤 里絵 (48) ＜令和3年4月＞ 修士（心理学）
兼任 講師	教育学	梨本 加菜 (52) ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
兼任 講師	生理解析学実習	萩原 康夫 (56) ＜令和4年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	漢方治療学	林 明宗 (73) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	社会福祉論	久次 奈美 (53) ＜令和4年4月＞ Master of Science in Social Work
兼任 講師	放射線概論	星川 嘉一 (60) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	薬事関係法規・薬事制度 総合演習Ⅰ	星野 仁 (53) ＜令和6年4月＞ 薬学士
兼任 講師	哲学	米田 祐介 (41) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
兼任 講師	文化人類学	牧野 久実 (61) ＜令和3年4月＞ 博士（史学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師	韓国語	金 美瑛 (42) ＜令和3年4月＞ 修士
兼任 講師	倫理学 生命倫理学 生命・医療倫理学	小館 貴幸 (49) ＜令和3年4月＞ 修士（哲学）
兼任 講師	香粧品科学	小林 雄輔 (56) ＜令和6年4月＞ 修士（薬学）
兼任 講師	文学	近藤 正臣 (76) ＜令和3年4月＞ 文学士
兼任 講師	機能食品学	斉藤 貴一 (67) ＜令和4年4月＞ 博士（薬学）
兼任 講師	総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語Ⅲ 英会話A 英会話B 科学英語	Dax Thomas (47) ＜令和3年4月＞ Master of Arts
兼任 講師	コミュニケーション論	長澤 里絵 (49) ＜令和3年4月＞ 修士（心理学）
兼任 講師	教育学	梨本 加菜 (53) ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
兼任 講師	漢方治療学	林 明宗 (74) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	社会福祉論	久次 奈美 (54) ＜令和4年4月＞ Master of Science in Social Work
兼任 講師	放射線概論	星川 嘉一 (61) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	薬事関係法規・薬事制度 総合演習Ⅰ	星野 仁 (54) ＜令和6年4月＞ 薬学士
兼任 講師	哲学	米田 祐介 (42) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
兼任 講師		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師	韓国語	金 美瑛 (42) ＜令和3年4月＞ 修士
兼任 講師	倫理学 生命倫理学 生命・医療倫理学	小館 貴幸 (50) ＜令和3年4月＞ 修士（哲学）
兼任 講師	香粧品科学	小林 雄輔 (57) ＜令和6年4月＞ 修士（薬学）
兼任 講師	文学	近藤 正臣 (77) ＜令和3年4月＞ 文学士
兼任 講師	機能食品学	斉藤 貴一 (68) ＜令和4年4月＞ 博士（薬学）
兼任 講師	コミュニケーション論 心理学 発達心理学 臨床心理学	長澤 里絵 (50) ＜令和3年4月＞ 修士（心理学）
兼任 講師	教育学	梨本 加菜 (54) ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
兼任 講師	漢方治療学	林 明宗 (75) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	社会福祉論	久次 奈美 (55) ＜令和4年4月＞ Master of Science in Social Work
兼任 講師	放射線概論	星川 嘉一 (62) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	薬事関係法規・薬事制度 総合演習Ⅰ	星野 仁 (55) ＜令和6年4月＞ 薬学士
兼任 講師	哲学	米田 祐介 (43) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
兼任 講師		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師	韓国語	金 美瑛 (45) ＜令和3年4月＞ 修士
兼任 講師	倫理学 生命倫理学 生命・医療倫理学	小館 貴幸 (51) ＜令和3年4月＞ 修士（哲学）
兼任 講師	香粧品科学	小林 雄輔 (58) ＜令和6年4月＞ 修士（薬学）
兼任 講師	文学	近藤 正臣 (78) ＜令和3年4月＞ 文学士
兼任 講師	機能食品学	斉藤 貴一 (69) ＜令和4年4月＞ 博士（薬学）
兼任 講師	心理学 発達心理学 臨床心理学	長澤 里絵 (51) ＜令和3年4月＞ 修士（心理学）
兼任 講師	教育学	梨本 加菜 (55) ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
兼任 講師	漢方治療学	林 明宗 (76) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	社会福祉論	久次 奈美 (56) ＜令和4年4月＞ Master of Science in Social Work
兼任 講師	放射線概論	星川 嘉一 (63) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	薬事関係法規・薬事制度 総合演習Ⅰ	星野 仁 (56) ＜令和6年4月＞ 薬学士
兼任 講師	哲学	米田 祐介 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
兼任 講師		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師	韓国語	金 美瑛 (46) ＜令和3年4月＞ 修士
兼任 講師	倫理学 生命倫理学 生命・医療倫理学	小館 貴幸 (52) ＜令和3年4月＞ 修士（哲学）
兼任 講師	香粧品科学	小林 雄輔 (59) ＜令和6年4月＞ 修士（薬学）
兼任 講師	文学	近藤 正臣 (79) ＜令和3年4月＞ 文学士
兼任 講師	機能食品学	斉藤 貴一 (70) ＜令和4年4月＞ 博士（薬学）
兼任 講師	心理学 発達心理学 臨床心理学	長澤 里絵 (52) ＜令和3年4月＞ 修士（心理学）
兼任 講師	教育学	久保内（梨本） 加菜 (56) ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
兼任 講師	漢方治療学	林 明宗 (77) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	社会福祉論	久次 奈美 (57) ＜令和4年4月＞ Master of Science in Social Work
兼任 講師	放射線概論	星川 嘉一 (64) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	薬事関係法規・薬事制度 総合演習Ⅰ	星野 仁 (57) ＜令和6年4月＞ 薬学士
兼任 講師	哲学	米田 祐介 (45) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
兼任 講師		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三浦 優佳 (35) ＜令和3年4月＞ 修士（芸術）
		音楽論
兼任	講師	宮田 理 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（理学）
		障害者スポーツ
兼任	講師	宮本 康司 (45) ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
兼任	講師	魯 大鳴 (63) ＜令和3年4月＞ —
		中国語
兼任	講師	輪湖 史子 (64) ＜令和3年4月＞ 修士（保健学）
		国際保健医療論
兼任	教授	緑川 武正 (66) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 病理学概論 症候・診断学
兼任	講師	遠藤太刀男 (57) ＜令和6年4月＞ 医学士
		病理学概論
兼任	講師	大森 千草 (55) ＜令和4年4月＞ 学術修士 保健学修士
		英語Ⅲ（コミュニケーション）
兼任	講師	龍崎 桂子 (61) ＜令和3年4月＞ 専門学校卒
		栄養学
兼任	講師	開田 恵理子 (38) ＜令和3年4月＞ 医学士
		症候論
兼任	講師	川地 義雄 (74) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	齋木 美恵子 (75) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	田口 秀明 (70) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 症候・診断学
兼任	講師	宮本 正和 (71) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 英語Ⅰ（基礎英語） 英語Ⅱ（医療英語）
兼任	講師	平野 克治 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		老年学
兼任可		
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 医療薬学・ユートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三浦 優佳 (36) ＜令和3年4月＞ 修士（芸術）
		音楽論
兼任	講師	宮田 理 (45) ＜令和3年4月＞ 修士（理学）
		障害者スポーツ
兼任	講師	
兼任	講師	魯 大鳴 (64) ＜令和3年4月＞ —
		中国語
兼任	講師	輪湖 史子 (65) ＜令和3年4月＞ 修士（保健学）
		国際保健医療論
兼任	教授	緑川 武正 (66) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 病理学概論 症候・診断学
兼任	講師	遠藤太刀男 (58) ＜令和6年4月＞ 医学士
		病理学概論
兼任	講師	大森 千草 (56) ＜令和4年4月＞ 学術修士 保健学修士
		英語Ⅲ（コミュニケーション）
兼任	講師	
兼任	講師	開田 恵理子 (39) ＜令和3年4月＞ 医学士
		症候論
兼任	講師	川地 義雄 (75) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	齋木 美恵子 (76) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	田口 秀明 (71) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 症候・診断学
兼任	講師	宮本 正和 (72) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		英語Ⅰ（基礎英語） 英語Ⅱ（医療英語）
兼任	講師	平野 克治 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		老年学
兼任		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三浦 優佳 (37) ＜令和3年4月＞ 修士（芸術）
		音楽論
兼任	講師	宮田 理 (46) ＜令和3年4月＞ 修士（理学）
		障害者スポーツ
兼任	講師	
兼任	講師	魯 大鳴 (65) ＜令和3年4月＞ —
		中国語
兼任	講師	輪湖 史子 (66) ＜令和3年4月＞ 修士（保健学）
		国際保健医療論 国際調保論
兼任	教授	緑川 武正 (67) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 病理学概論 症候・診断学
兼任	講師	遠藤 太刀男 (59) ＜令和6年4月＞ 医学士
		病理学概論
兼任	講師	大森 千草 (57) ＜令和4年4月＞ 学術修士 保健学修士
		英語Ⅲ（コミュニケーション）
兼任	講師	
兼任	講師	川地 義雄 (76) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	齋木 美恵子 (77) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	
兼任	講師	平野 克治 (57) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		老年学
兼任		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三浦 優佳 (38) ＜令和3年4月＞ 修士（芸術）
		音楽論
兼任	講師	
兼任	講師	魯 大鳴 (66) ＜令和3年4月＞ —
		中国語
兼任	講師	輪湖 史子 (67) ＜令和3年4月＞ 修士（保健学）
		国際保健医療論 国際調保論
兼任	講師	
兼任	講師	遠藤 太刀男 (60) ＜令和6年4月＞ 医学士
		病理学概論
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	平野 克治 (58) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		老年学
兼任		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三浦 優佳 (39) ＜令和3年4月＞ 修士（芸術）
		音楽論
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	魯 大鳴 (67) ＜令和3年4月＞ —
		中国語
兼任	講師	輪湖 史子 (68) ＜令和3年4月＞ 修士（保健学）
		国際保健医療論 国際調保論
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	平野 克治 (54) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		老年学
兼任		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専任	専任	チーム医療論 生理解剖学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用） 卒業研究Ⅱ（課題解決型薬学研究・発展）	専任	専任		専任	専任		専任	専任		専任	専任	
兼任	講師	橋本 操子 (63) ＜令和3年4月1日＞ 学士（文学） 情報リテラシー	兼任	講師	橋本 操子 (64) ＜令和3年4月1日＞ 学士（文学） 情報リテラシー	兼任	講師	橋本 操子 (65) ＜令和3年4月1日＞ 学士（文学） 情報リテラシー	兼任	講師	橋本 操子 (66) ＜令和3年4月1日＞ 学士（文学） 情報リテラシー	兼任	講師	橋本 操子 (66) ＜令和3年4月1日＞ 学士（文学） 情報リテラシー
兼任	講師	加藤 広大 (35) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学） レクリエーションスポーツ	兼任	講師	加藤 広大 (36) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学） レクリエーションスポーツ	兼任	講師	加藤 広大 (37) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学） レクリエーションスポーツ	兼任	講師	加藤 広大 (38) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学） レクリエーションスポーツ	兼任	講師	加藤 広大 (38) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学） レクリエーションスポーツ
兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
兼任	講師	原田 勝広 (72) ＜令和3年4月1日＞ 文学士 ボランティア学	兼任	講師	原田 勝広 (73) ＜令和3年4月1日＞ 文学士 ボランティア学	兼任	講師	原田 勝広 (74) ＜令和3年4月1日＞ 文学士 ボランティア学	兼任	講師	原田 勝広 (74) ＜令和3年4月1日＞ 文学士 ボランティア学	兼任	講師	原田 勝広 (74) ＜令和3年4月1日＞ 文学士 ボランティア学
兼任	講師	渡谷 俊樹 (40) ＜令和4年4月＞ 博士（社会学） 文化人類学	兼任	講師	渡谷 俊樹 (41) ＜令和4年4月＞ 博士（社会学） 文化人類学	兼任	講師	渡谷 俊樹 (42) ＜令和4年4月＞ 博士（社会学） 文化人類学	兼任	講師	渡谷 俊樹 (43) ＜令和4年4月＞ 博士（社会学） 文化人類学	兼任	講師	渡谷 俊樹 (43) ＜令和4年4月＞ 博士（社会学） 文化人類学
兼任	講師	池田 威秀 (43) ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 環境論	兼任	講師	池田 威秀 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 環境論	兼任	講師	池田 威秀 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 環境論	兼任	講師	池田 威秀 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 環境論	兼任	講師	池田 威秀 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 環境論
兼任	講師	中谷 弥栄子 (65) ＜令和4年4月＞ 博士（医学） 栄養学	兼任	講師	中谷 弥栄子 (66) ＜令和4年4月＞ 博士（医学） 栄養学	兼任	講師	中谷 弥栄子 (67) ＜令和4年4月＞ 博士（医学） 栄養学	兼任	講師	中谷 弥栄子 (68) ＜令和4年4月＞ 博士（医学） 栄養学	兼任	講師	中谷 弥栄子 (68) ＜令和4年4月＞ 博士（医学） 栄養学
兼任	講師	真島 信英 (47) ＜令和4年4月＞ 修士（法学） 法学（含日本国憲法）	兼任	講師	真島 信英 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（法学） 法学（含日本国憲法）	兼任	講師	真島 信英 (49) ＜令和4年4月＞ 修士（法学） 法学（含日本国憲法）	兼任	講師	真島 信英 (50) ＜令和4年4月＞ 修士（法学） 法学（含日本国憲法）	兼任	講師	真島 信英 (50) ＜令和4年4月＞ 修士（法学） 法学（含日本国憲法）
兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
兼任	講師	宮本 和恵 (71) ＜令和5年4月＞ 文学修士 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB	兼任	講師	宮本 和恵 (72) ＜令和5年4月＞ 文学修士 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB	兼任	講師	宮本 和恵 (72) ＜令和5年4月＞ 文学修士 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB	兼任	講師	宮本 和恵 (73) ＜令和5年4月＞ 文学修士 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB	兼任	講師	宮本 和恵 (73) ＜令和5年4月＞ 文学修士 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB
兼任	講師	宮本 和茂 (45) ＜令和5年4月＞ 修士（文学） 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 英語Ⅱ（医療英語）	兼任	講師	宮本 和茂 (46) ＜令和5年4月＞ 修士（文学） 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 英語Ⅱ（医療英語）	兼任	講師	宮本 和茂 (47) ＜令和5年4月＞ 修士（文学） 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 英語Ⅱ（医療英語） 英語Ⅲ（コミュニケーション）	兼任	講師	宮本 和茂 (47) ＜令和5年4月＞ 修士（文学） 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 英語Ⅱ（医療英語） 英語Ⅲ（コミュニケーション）	兼任	講師	宮本 和茂 (47) ＜令和5年4月＞ 修士（文学） 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 英語Ⅱ（医療英語） 英語Ⅲ（コミュニケーション）
兼任	講師	石田 克紀 (59) ＜令和6年4月＞ 医学博士 病理学概論 症候・診断学	兼任	講師	石田 克紀 (60) ＜令和6年4月＞ 医学博士 病理学概論 症候・診断学	兼任	講師	石田 克紀 (60) ＜令和6年4月＞ 医学博士 病理学概論 症候・診断学	兼任	講師	石田 克紀 (60) ＜令和6年4月＞ 医学博士 病理学概論 症候・診断学	兼任	講師	石田 克紀 (60) ＜令和6年4月＞ 医学博士 病理学概論 症候・診断学
兼任	講師	水野 真由美 (35) ＜令和6年4月＞ 学士 香粧品科学	兼任	講師	水野 真由美 (36) ＜令和6年4月＞ 学士 香粧品科学	兼任	講師	水野 真由美 (36) ＜令和6年4月＞ 学士 香粧品科学	兼任	講師	水野 真由美 (36) ＜令和6年4月＞ 学士 香粧品科学	兼任	講師	水野 真由美 (36) ＜令和6年4月＞ 学士 香粧品科学
兼任	講師	宋 敏麟 (80) ＜令和6年4月＞ 医学博士 症候・診断学	兼任	講師	宋 敏麟 (80) ＜令和6年4月＞ 医学博士 症候・診断学	兼任	講師	宋 敏麟 (80) ＜令和6年4月＞ 医学博士 症候・診断学	兼任	講師	宋 敏麟 (80) ＜令和6年4月＞ 医学博士 症候・診断学	兼任	講師	宋 敏麟 (80) ＜令和6年4月＞ 医学博士 症候・診断学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専	教授 (学部長)	鈴木 勉 (71) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 薬と毒性学入門 薬学入門Ⅰ(薬剤師の使命) 薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学) 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 処方解析演習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専	教授	石川 吉伸 (53) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 科学計算演習 日本薬局方 分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 分析化学実習 分析化学Ⅲ 分析化学Ⅳ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	教授	石橋 芳雄 (67) <令和3年4月> 医学博士
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅰ 微生物学実習 免疫学Ⅱ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	教授	岩本 和夫 (63) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ
専	教授	木村 聡一郎 (48) <令和4年4月> 博士(農学)
		チーム医療論 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 免疫学 微生物学実習 感染制御学 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	教授	栗原 正明 (64) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 化学系実習 有機化学実習 有機化学Ⅲ 創薬化学 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	教授	坂本 芳雄 (71) <令和3年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 症候論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 病理学概論 症候・診断学 処方解析演習 薬物治療学Ⅴ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

【令和3年度】

専	教授 (学部長)	鈴木 勉 (71) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 薬と毒性学入門 薬学入門Ⅰ(薬剤師の使命) 薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学) 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 処方解析演習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専	教授	石川 吉伸 (53) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 科学計算演習 日本薬局方 分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 分析化学実習 分析化学Ⅲ 分析化学Ⅳ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	教授	石橋 芳雄 (67) <令和3年4月> 医学博士
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅰ 微生物学実習 免疫学Ⅱ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	教授	
専	教授	木村 聡一郎 (48) <令和4年4月> 博士(農学)
		チーム医療論 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅰ 微生物学実習 感染制御学 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	教授	栗原 正明 (64) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 化学系実習 有機化学実習 有機化学Ⅲ 創薬化学 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	教授	坂本 芳雄 (71) <令和3年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 症候論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 病理学概論 症候・診断学 処方解析演習 薬物治療学Ⅴ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		塩田 清二 (71) <令和3年4月> 医学博士
		チーム医療論 早期臨床体験実習 解剖学 生理学 生理解剖学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 教授		定本 清美 (65) <令和3年4月> 医学博士
		チーム医療論 臨床論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 薬物治療Ⅱ 処方解析演習 薬物治療学Ⅲ 薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅵ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専 教授		高橋 央宣 (56) <令和3年4月> 博士(理学)
		チーム医療論 物理系基礎科学 物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 物理化学Ⅲ 物理化学実習 薬局実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 教授		展 広智 (51) <令和4年4月> 医学博士
		チーム医療論 生理解剖学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)
専 教授		東山 公男 (67) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 化学系実習 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 有機化学実習 薬局実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 教授		松田 正彦 (56) <令和4年4月> 薬学博士
		チーム医療論 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 薬物治療Ⅰ 薬理学実習 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 医療薬学チュートリアル演習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		塩田 清二 (71) <令和3年4月> 医学博士
		チーム医療論 早期臨床体験実習 解剖学 生理学 生理解剖学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 教授		定本 清美 (65) <令和3年4月> 医学博士
		チーム医療論 臨床論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 薬物治療Ⅱ 処方解析演習 薬物治療学Ⅲ 薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅵ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専 教授		高橋 央宣 (56) <令和3年4月> 博士(理学)
		チーム医療論 物理系基礎科学 物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 物理化学Ⅲ 物理化学実習 薬局実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 教授		展 広智 (51) <令和4年4月> 医学博士
		チーム医療論 生理解剖学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)
専 教授		東山 公男 (67) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 化学系実習 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 有機化学実習 薬局実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 教授		松田 正彦 (56) <令和4年4月> 薬学博士
		チーム医療論 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 薬物治療Ⅰ 薬理学実習 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 医療薬学チュートリアル演習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		古 藤 博行 (62) <令和3年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学) 早期臨床体験実習 薬剤経済学 後期臨床体験実習 医療統計学 処方解析演習 医薬品開発学 医療安全管理 レギュラトリーサイエンス 薬物治療学Ⅵ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専 教授		若 山 恵 (60) <令和4年4月> 医学博士
		チーム医療論 病理学概論 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)
専 准教授		石 田 洋一 (46) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 生物系基礎科学 生物系実習 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 生化学Ⅲ 生化学Ⅳ アドバンスド生物化学 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 准教授		市 川 智恵 (47) <令和4年9月> 博士(薬学)
		チーム医療論 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅰ 微生物学実習 免疫学Ⅱ 感染制御学 薬理学Ⅱ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 准教授		片 川 和明 (43) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 日本薬局方 天然薬物学 天然薬物学実習 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 准教授		加藤 英明 (50) <令和4年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 公衆衛生学 放射化学 衛生化学Ⅰ 衛生化学Ⅱ 衛生化学実習 衛生化学Ⅲ 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		古 藤 博行 (62) <令和6年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学) 早期臨床体験実習 薬剤経済学 後期臨床体験実習 医療統計学 処方解析演習 医薬品開発学 医療安全管理 レギュラトリーサイエンス 薬物治療学Ⅵ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専 教授		若 山 恵 (60) <令和4年4月> 医学博士
		チーム医療論 病理学概論 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)
専 准教授		石 田 洋一 (46) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 生物系基礎科学 生物系実習 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 生化学Ⅲ 生化学Ⅳ アドバンスド生物化学 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 准教授		市 川 智恵 (47) <令和4年9月> 博士(薬学)
		チーム医療論 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅰ 微生物学実習 免疫学Ⅱ 感染制御学 薬理学Ⅱ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 准教授		片 川 和明 (43) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 日本薬局方 天然薬物学 天然薬物学実習 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 准教授		加藤 英明 (50) <令和4年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 公衆衛生学 放射化学 衛生化学Ⅰ 衛生化学Ⅱ 衛生化学実習 衛生化学Ⅲ 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	佐野 和美 (61) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学) 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 日本薬局方 薬毒生物学 薬物動態学Ⅰ 薬剤学Ⅰ 薬物動態学Ⅱ 薬剤学Ⅱ 処方解析演習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専	准教授	須田 篤也 (57) <令和3年4月> 博士(文学)
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語Ⅲ 英会話A 英会話B 科学英語
専	准教授	山崎 泰広 (48) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 生理学 生理解剖学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	講師	池上 大悟 (40) <令和4年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ 薬理学実習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専	講師	市丸 嘉 (34) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 化学系実習 有機化学実習 創薬化学 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 医療薬学チュートリアル演習Ⅱ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	講師	加藤 絃一 (31) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 科学計算演習 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 分析化学Ⅱ 分析化学実習 物理化学実習 分析化学Ⅲ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	佐野 和美 (61) <令和3年4月> 薬学博士
		チーム医療論 薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学) 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 日本薬局方 薬毒生物学 薬物動態学Ⅰ 薬剤学Ⅰ 薬物動態学Ⅱ 薬剤学Ⅱ 処方解析演習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専	准教授	須田 篤也 (57) <令和3年4月> 博士(文学)
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語Ⅲ 英会話A 英会話B 科学英語
専	准教授	山崎 泰広 (48) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 生理学 生理解剖学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	講師	池上 大悟 (40) <令和4年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ 薬理学実習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専	講師	市丸 嘉 (34) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 化学系実習 有機化学実習 創薬化学 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 医療薬学チュートリアル演習Ⅱ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専	講師	加藤 絃一 (31) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 科学計算演習 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 分析化学Ⅱ 分析化学実習 物理化学実習 分析化学Ⅲ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		殿山 泰弘 (43) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 生物系実習 生化学実習 微生物学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 講師		中樫 奨 (40) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 化学系基礎科学 化学系実習 有機化学実習 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 助教		宇津 美秋 (33) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 薬理学実習 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専 助教		江川 大地 (34) <令和4年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 天然薬物学実習 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 助教		進藤 綾大 (33) <令和4年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 微生物学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 助教		須藤 遥 (32) <令和3年4月> 博士(薬科学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 生物系基礎科学 生物系実習 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 生化学Ⅲ 生化学Ⅳ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 助教		曾川 甲子郎 (37) <令和4年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 公衆衛生学 衛生化学Ⅰ 衛生化学Ⅱ 衛生化学実習 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		殿山 泰弘 (43) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 生物系実習 生化学実習 微生物学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 講師		中樫 奨 (40) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 化学系基礎科学 化学系実習 有機化学実習 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 助教		宇津 美秋 (33) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 薬理学実習 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
専 助教		江川 大地 (34) <令和4年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 天然薬物学実習 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 助教		進藤 綾大 (33) <令和4年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 微生物学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 助教		須藤 遥 (32) <令和3年4月> 博士(薬科学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 生物系基礎科学 生物系実習 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 生化学Ⅲ 生化学Ⅳ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬局実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ
専 助教		曾川 甲子郎 (37) <令和4年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 公衆衛生学 衛生化学Ⅰ 衛生化学Ⅱ 衛生化学実習 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	加賀谷 肇 (68) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学) 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 腫瘍生物学 処方解析演習 薬物治療学Ⅴ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 臨床薬学 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ インターンシップ実習(課題解決型薬学研究・展開)
実専	教授	加藤 裕久 (66) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 処方解析演習 医薬品情報学 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	教授	国分 秀也 (54) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅴ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	教授	佐藤 淳也 (51) <令和5年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 薬物治療学Ⅱ 処方解析演習 薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅴ 薬物治療学Ⅵ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	准教授	小野塚 真理 (52) <令和5年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 薬理学Ⅰ 薬物動態学Ⅱ 薬理学Ⅱ 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	准教授	竹内 尚子 (66) <令和5年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ コミュニティーファーマシー 薬局実務実習 地域包括医療論(在宅医療を含む) セルフメディケーション 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	加賀谷 肇 (68) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学) 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 腫瘍生物学 処方解析演習 薬物治療学Ⅴ 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 臨床薬学 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ インターンシップ実習(課題解決型薬学研究・展開)
実専	教授	加藤 裕久 (66) <令和3年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 処方解析演習 医薬品情報学 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	教授	国分 秀也 (54) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅴ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	教授	佐藤 淳也 (51) <令和5年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 薬物治療学Ⅱ 処方解析演習 薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅴ 薬物治療学Ⅵ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	准教授	小野塚 真理 (52) <令和5年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 薬理学Ⅰ 薬物動態学Ⅱ 薬理学Ⅱ 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	准教授	竹内 尚子 (66) <令和5年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ コミュニティーファーマシー 薬局実務実習 地域包括医療論(在宅医療を含む) セルフメディケーション 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	寺島 朝子 (47) <令和4年4月> 博士(臨床薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	講師	荒井 幸子 <令和5年4月> (47) 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 薬物治療学Ⅲ 薬物治療学Ⅴ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	講師	尾関 あゆみ (39) <令和5年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 後期臨床体験実習 処方解析演習 薬物治療学Ⅴ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	講師	細谷 龍一郎 (42) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 医療薬学チュートリアル演習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	助教	浦 裕之 (38) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	助教	沖崎(松元) 歩 (38) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 薬局実務実習 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	助教	田中 怜 (35) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 薬物治療学Ⅴ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	寺島 朝子 (47) <令和4年4月> 博士(臨床薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	講師	荒井 幸子 <令和5年4月> (47) 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 薬物治療学Ⅲ 薬物治療学Ⅴ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	講師	尾関 あゆみ (39) <令和5年4月> 博士(医学)
		チーム医療論 後期臨床体験実習 処方解析演習 薬物治療学Ⅴ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	講師	細谷 龍一郎 (42) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 医療薬学チュートリアル演習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	助教	浦 裕之 (38) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	助教	沖崎(松元) 歩 (38) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 薬局実務実習 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ
実専	助教	田中 怜 (35) <令和5年4月> 博士(薬学)
		チーム医療論 処方解析演習 薬物治療学Ⅴ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前学習Ⅲ 病院実務実習 薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用) 卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展) 総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		石川 福江 (75) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		チーム医療論
兼任 教授		生田 宗博 (78) ＜令和8年4月＞ 医学博士
		チーム医療論
兼任 教授		牛田（上野）貴子 (65) ＜令和8年4月＞ 博士（医科学）
		チーム医療論
兼任 教授		大澤 千恵子 (69) ＜令和8年4月＞ 博士（医科学）
兼任 教授		大森 圭貢 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（リハビリテーション科 学）
		チーム医療論
兼任 教授		片山 典子 (61) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）
		チーム医療論
兼任 教授		加藤 尚美 (85) ＜令和8年4月＞ 修士（経営学）□
		チーム医療論
兼任 教授		川本 利恵子 (69) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		チーム医療論 看護論
兼任 教授		喜多村 健 (72) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		チーム医療論 症候論 病理学概論 症候・診断学
兼任 教授		小林 和彦 (64) ＜令和8年4月＞ 博士（ヒューマンケア学）
		チーム医療論
兼任 教授		小林 紀明 (61) ＜令和8年4月＞ 社会学修士
		チーム医療論
兼任 教授		坂上 昇 (57) ＜令和8年4月＞ 博士（学術）
		チーム医療論
兼任 教授		島田 啓子 (74) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		チーム医療論
兼任 教授		鈴木 雄介 (53) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		チーム医療論
兼任 教授		田島 明子 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（学術）
		チーム医療論
兼任 教授		田邊 浩文 (64) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		チーム医療論
兼任 教授		鶴見 隆彦 (68) ＜令和8年4月＞ 修士（保健学）
		チーム医療論
兼任 教授		鶴見 隆正 (74) ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		チーム医療論 総合リハビリテーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		石川 福江 (75) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		チーム医療論
兼任 教授		生田 宗博 (78) ＜令和8年4月＞ 医学博士
		チーム医療論
兼任 教授		牛田（上野）貴子 (65) ＜令和8年4月＞ 博士（医科学）
		チーム医療論
兼任 教授		大澤 千恵子 (69) ＜令和8年4月＞ 博士（医科学）
兼任 教授		大森 圭貢 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（リハビリテーション科 学）
		チーム医療論
兼任 教授		片山 典子 (61) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）
		チーム医療論
兼任 教授		加藤 尚美 (85) ＜令和8年4月＞ 修士（経営学）□
		チーム医療論
兼任 教授		川本 利恵子 (69) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		チーム医療論 看護論
兼任 教授		喜多村 健 (72) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		チーム医療論 症候論 病理学概論 症候・診断学
兼任 教授		小林 和彦 (64) ＜令和8年4月＞ 博士（ヒューマンケア学）
		チーム医療論
兼任 教授		小林 紀明 (61) ＜令和8年4月＞ 社会学修士
		チーム医療論
兼任 教授		坂上 昇 (57) ＜令和8年4月＞ 博士（学術）
		チーム医療論
兼任 教授		島田 啓子 (74) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		チーム医療論
兼任 教授		鈴木 雄介 (53) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		チーム医療論
兼任 教授		田島 明子 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（学術）
		チーム医療論
兼任 教授		田邊 浩文 (64) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		チーム医療論
兼任 教授		鶴見 隆彦 (68) ＜令和8年4月＞ 修士（保健学）
		チーム医療論
兼任 教授		鶴見 隆正 (74) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		チーム医療論 総合リハビリテーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	寺本 明 (73) ＜令和3年4月＞ 医学博士	兼任	教授	寺本 明 (73) ＜令和3年4月＞ 医学博士						
		チーム医療論 症候論 病理学概論 症候・診断学			チーム医療論 症候論 病理学概論 症候・診断学						
兼任	教授	長澤 弘 (74) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）	兼任	教授	長澤 弘 (74) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	教授	羽生 貞親 (58) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）	兼任	教授	羽生 貞親 (58) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	教授	東館 雅文 (73) ＜令和6年4月＞ 医学博士	兼任	教授	東館 雅文 (73) ＜令和6年4月＞ 医学博士						
		チーム医療論 病理学概論			チーム医療論 病理学概論						
兼任	教授	望月 聡一郎 (56) ＜令和4年4月＞ 医療政策学修士	兼任	教授	望月 聡一郎 (56) ＜令和4年4月＞ 医療政策学修士						
		チーム医療論 保健行政論			チーム医療論 保健行政論						
兼任	准教授	斉藤（加藤） 琴子 (54) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）	兼任	准教授	斉藤（加藤） 琴子 (54) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	櫻井 好美 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）	兼任	准教授	櫻井 好美 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	澤井 美奈子 (58) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）	兼任	准教授	澤井 美奈子 (58) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	塩田 美佐代 (67) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	准教授	塩田 美佐代 (67) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	高畠 有理子 (55) ＜令和8年4月＞ 修士（社会学）	兼任	准教授	高畠 有理子 (55) ＜令和8年4月＞ 修士（社会学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	土師 しのぶ (54) ＜令和8年5月＞ 修士（看護学）	兼任	准教授	土師 しのぶ (54) ＜令和8年5月＞ 修士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	森尾 裕志 (51) ＜令和8年4月＞ 修士（リハビリテーション）	兼任	准教授	森尾 裕志 (51) ＜令和8年4月＞ 修士（リハビリテーション）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	准教授	渡邊 知佳子 (63) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）	兼任	准教授	渡邊 知佳子 (63) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	講師	菊池 有紀 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）	兼任	講師	菊池 有紀 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	講師	草野 明 (63) ＜令和8年4月＞ 修士（認知科学）	兼任	講師	草野 明 (63) ＜令和8年4月＞ 修士（認知科学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	講師	久保田 清子 (55) ＜令和8年4月＞ 修士（保健学）	兼任	講師	久保田 清子 (55) ＜令和8年4月＞ 修士（保健学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	講師	櫻井 友子 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	櫻井 友子 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）						
		チーム医療論			チーム医療論						
兼任	講師	須藤 康介 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（作業療法学）	兼任	講師	須藤 康介 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（作業療法学）						
		チーム医療論			チーム医療論						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			
兼任	講師	鈴木 秀樹 (54) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	講師			鈴木 秀樹 (54) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	講師
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	講師	陶山 克洋 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	講師			陶山 克洋 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	講師
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	講師	中尾 陽光 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（体育科学）		兼任	講師			中尾 陽光 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（体育科学）		兼任	講師
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	講師	三川 年正 (56) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学）		兼任	講師			三川 年正 (56) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学）		兼任	講師
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	講師	光金 正官 (59) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）		兼任	講師			光金 正官 (59) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）		兼任	講師
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	講師	矢萩 実幸 (62) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）									
		チーム医療論									
兼任	講師	山崎 真帆 (53) ＜令和8年4月＞ 修士（経済学）		兼任	講師			山崎 真帆 (53) ＜令和8年4月＞ 修士（経済学）		兼任	講師
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	網谷 奈央 (43) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教			網谷 奈央 (43) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	石橋 史子 (48) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教			石橋 史子 (48) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	市川 砂織 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教			市川 砂織 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	伊東 春美 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（メディアデザイン学）									
		チーム医療論									
兼任	助教	稲垣 尚美 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（教育学）		兼任	助教			稲垣 尚美 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（教育学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	大胡 晴香 (39) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教			大胡 晴香 (39) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	岡 多恵 (57) ＜令和8年4月＞ 修士（がん看護学）		兼任	講師			岡 多恵 (57) ＜令和8年4月＞ 修士（がん看護学）		兼任	講師
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	倉橋 悠子 (46) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教			倉橋 悠子 (46) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	黒田 由香理 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教			黒田 由香理 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	後藤 光世 (58) ＜令和8年4月＞ 修士（老年学）		兼任	助教			後藤 光世 (58) ＜令和8年4月＞ 修士（老年学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			
兼任	助教	下田 栄次 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学）		兼任	助教			下田 栄次 (47) ＜令和8年4月＞ 修士（保健医療学）		兼任	助教
		チーム医療論						チーム医療論			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		高橋 真由美 (51) <令和8年5月> 修士(教育学)
		チーム医療論
兼任 助教		玉田 聡史 (36) <令和8年4月> 修士(看護学)
		チーム医療論
兼任 助教		塚原 ゆかり (57) <令和8年4月> 修士(看護学)
		チーム医療論
兼任 助教		土田 将之 (50) <令和8年4月> 博士(保健福祉学)
		チーム医療論
兼任 助教		鶴見 薫 (41) <令和8年4月> 修士(保健学)
		チーム医療論
兼任 助教		中村 壽志 (39) <令和8年4月> 修士(保健医療学)
		チーム医療論
兼任 助教		西野 由希子 (50) <令和8年4月> 修士(作業療法学)
		チーム医療論
兼任 助教		山田 艶子 (60) <令和8年4月> 学士(教養)
		チーム医療論
兼任 講師		赤瀬 朋秀 (58) <令和8年4月> 博士(臨床薬学)
		ファーマシーマネジメント論
兼任 講師		浅野 幸子 (48) <令和3年4月> 修士(政策科学)
		ジェンダー論
兼任 講師		安藤 政規 (54) <令和3年4月> 工学士
		情報リテラシー
兼任 講師		飯田 純一 (57) <令和8年4月> 博士(薬科学)
		臨床栄養学
兼任 講師		石川 洋一 (66) <令和6年4月> 薬学士
		医療薬学チュートリアル演習Ⅱ
兼任 講師		伊藤 和歌子 (45) <令和3年4月> 博士(政治学)
		ボランティア学
兼任 講師		庵原 宏義 (77) <令和3年4月> 農学士
		国際関係論
兼任 講師		浮谷 秀一 (67) <令和3年4月> 文学修士
		心理学 発達心理学 臨床心理学
兼任 講師		内田 健太郎 (39) <令和3年4月> 博士(医学)
		研究法入門
兼任 講師		門林 道子 (66) <令和3年4月> 博士(学術)
		社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		高橋 真由美 (51) <令和8年5月> 修士(教育学)
		チーム医療論
兼任 助教		玉田 聡史 (36) <令和8年4月> 修士(看護学)
		チーム医療論
兼任 助教		塚原 ゆかり (57) <令和8年4月> 修士(看護学)
		チーム医療論
兼任 助教		土田 将之 (50) <令和8年4月> 博士(保健福祉学)
		チーム医療論
兼任 助教		鶴見 薫 (41) <令和8年4月> 修士(保健学)
		チーム医療論
兼任 助教		中村 壽志 (39) <令和8年4月> 修士(保健医療学)
		チーム医療論
兼任 助教		西野 由希子 (50) <令和8年4月> 修士(作業療法学)
		チーム医療論
兼任 助教		山田 艶子 (60) <令和8年4月> 学士(教養)
		チーム医療論
兼任 講師		赤瀬 朋秀 (58) <令和8年4月> 博士(臨床薬学)
		ファーマシーマネジメント論
兼任 講師		浅野 幸子 (48) <令和3年4月> 修士(政策科学)
		ジェンダー論
兼任 講師		
兼任 講師		飯田 純一 (57) <令和8年4月> 博士(薬科学)
		臨床栄養学
兼任 講師		石川 洋一 (66) <令和6年4月> 薬学士
		医療薬学チュートリアル演習Ⅱ
兼任 講師		
兼任 講師		庵原 宏義 (77) <令和3年4月> 農学士
		国際関係論
兼任 講師		
兼任 講師		内田 健太郎 (39) <令和3年4月> 博士(医学)
		研究法入門
兼任 講師		門林 道子 (66) <令和3年4月> 博士(学術)
		社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	金 美球 (42) ＜令和3年4月＞ 修士
		韓国語
兼任	講師	小館 貴幸 (48) ＜令和3年4月＞ 修士（哲学）
		倫理学 生命倫理学 生命・医療倫理学
兼任	講師	小林 雄輔 (55) ＜令和6年4月＞ 修士（薬学）
		香粧品科学
兼任	講師	近藤 正臣 (75) ＜令和3年4月＞ 文学士
		文学
兼任	講師	斉藤 貴一 (66) ＜令和4年4月＞ 博士（薬学）
		機能食品学
兼任	講師	Dax Thomas (46) ＜令和3年4月＞ Master of Arts
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語Ⅲ 英会話A 英会話B 科学英語
兼任	講師	富田 エミ (46) ＜令和3年4月＞ 修士（スポーツ健康科学）
		レクリエーションスポーツ
兼任	講師	長岐 郁也 (47) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		法学（含日本国憲法）
兼任	講師	長澤 里絵 (48) ＜令和3年4月＞ 修士（心理学）
		コミュニケーション論
兼任	講師	梨本 加菜 (52) ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		教育学
兼任	講師	萩原 康夫 (56) ＜令和4年4月＞ 博士（医学）
		生理解剖学実習
兼任	講師	林 明宗 (73) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		漢方治療学
兼任	講師	久次 奈美 (53) ＜令和4年4月＞ Master of Science in Social Work
		社会福祉論
兼任	講師	星川 嘉一 (60) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		放射線概論
兼任	講師	星野 仁 (53) ＜令和6年4月＞ 薬学士
		薬事関係法規・薬事制度 総合演習Ⅰ
兼任	講師	米田 祐介 (41) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		哲学
兼任	講師	牧野 久実 (61) ＜令和3年4月＞ 博士（史学）
		文化人類学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	金 美球 (42) ＜令和3年4月＞ 修士
		韓国語
兼任	講師	小館 貴幸 (48) ＜令和3年4月＞ 修士（哲学）
		倫理学 生命倫理学 生命・医療倫理学
兼任	講師	小林 雄輔 (55) ＜令和6年4月＞ 修士（薬学）
		香粧品科学
兼任	講師	近藤 正臣 (75) ＜令和3年4月＞ 文学士
		文学
兼任	講師	斉藤 貴一 (66) ＜令和4年4月＞ 博士（薬学）
		機能食品学
兼任	講師	Dax Thomas (46) ＜令和3年4月＞ Master of Arts
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語Ⅲ 英会話A 英会話B 科学英語
兼任	講師	
兼任	講師	長岐 郁也 (47) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		法学（含日本国憲法）
兼任	講師	長澤 里絵 (48) ＜令和3年4月＞ 修士（心理学）
		コミュニケーション論 心理学 発達心理学 臨床心理学
兼任	講師	梨本 加菜 (52) ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		教育学
兼任	講師	萩原 康夫 (56) ＜令和4年4月＞ 博士（医学）
		生理解剖学実習
兼任	講師	林 明宗 (73) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		漢方治療学
兼任	講師	久次 奈美 (53) ＜令和4年4月＞ Master of Science in Social Work
		社会福祉論
兼任	講師	星川 嘉一 (60) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		放射線概論
兼任	講師	星野 仁 (53) ＜令和6年4月＞ 薬学士
		薬事関係法規・薬事制度 総合演習Ⅰ
兼任	講師	米田 祐介 (41) ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		哲学
兼任	講師	牧野 久実 (61) ＜令和3年4月＞ 博士（史学）
		文化人類学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三浦 優佳 (35) ＜令和3年4月＞ 修士（芸術）
		音楽論
兼任	講師	宮田 理 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（理学）
		障害者スポーツ
兼任	講師	宮本 康司 (45) ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
兼任	講師	魯 大鳴 (63) ＜令和3年4月＞ —
		中国語
兼任	講師	輪湖 史子 (64) ＜令和3年4月＞ 修士（保健学）
		国際保健医療論
兼任	教授	緑川 武正 (65) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 病理学概論 症候・診断学
兼任	講師	遠藤太刀男 (57) ＜令和6年4月＞ 医学士
		病理学概論
兼任	講師	大森 千草 (55) ＜令和4年4月＞ 学術修士 保健学修士
		英語Ⅲ（コミュニケーション）
兼任	講師	龍崎 桂子 (61) ＜令和3年4月＞ 専門学校卒
		栄養学
兼任	講師	開田 恵理子 (38) ＜令和3年4月＞ 医学士
		症候論
兼任	講師	川地 義雄 (74) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	齋木 美恵子 (75) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	田口 秀明 (70) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 症候・診断学
兼任	講師	宮本 正和 (71) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 英語Ⅰ（基礎英語） 英語Ⅱ（医療英語）
兼任	講師	平野 克治 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		老年学
兼任可		
		チーム医療論 早期臨床体験実習 後期臨床体験実習 医療薬学・リハビリ演習Ⅰ 薬局業務実習 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三浦 優佳 (35) ＜令和3年4月＞ 修士（芸術）
		音楽論
兼任	講師	宮田 理 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（理学）
		障害者スポーツ
兼任	講師	宮本 康司 (45) ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
兼任	講師	魯 大鳴 (63) ＜令和3年4月＞ —
		中国語
兼任	講師	輪湖 史子 (64) ＜令和3年4月＞ 修士（保健学）
		国際保健医療論
兼任	教授	緑川 武正 (65) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 病理学概論 症候・診断学
兼任	講師	遠藤太刀男 (57) ＜令和6年4月＞ 医学士
		病理学概論
兼任	講師	大森 千草 (55) ＜令和4年4月＞ 学術修士 保健学修士
		英語Ⅲ（コミュニケーション）
兼任	講師	開田 恵理子 (38) ＜令和3年4月＞ 医学士
		症候論
兼任	講師	川地 義雄 (74) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	齋木 美恵子 (75) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		病理学概論
兼任	講師	田口 秀明 (70) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		症候論 症候・診断学
兼任	講師	宮本 正和 (71) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 英語Ⅰ（基礎英語） 英語Ⅱ（医療英語）
兼任	講師	平野 克治 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		老年学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専任補充		チーム医療論 生理解剖学実習 医療薬学チュートリアル演習Ⅰ 薬学総合フレ研究 卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用） 卒業研究Ⅱ（課題解決型薬学研究・発展）									
			兼任	講師	橋本 規子 (62) ＜令和3年4月1日＞ 学士（文学） 情報リテラシー						
			兼任	講師	加藤 広大 (34) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学） レクリエーションスポーツ						
			兼任	講師	菊池有道 (77) ＜令和3年4月1日＞ 薬学士 早期臨床体験実習						
			兼任	講師	梅澤 麗由美 (72) ＜令和3年4月1日＞ 短期大学 東薬学						
			兼任	講師	原田 勝広 (71) ＜令和3年4月1日＞ 文学士 ボランティア学						

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ① 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）（その2の2）（その2の3）に準拠して作成して下さい。
 なお、設置認可時又は届出申請、改正前大学設置基準等（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以前については、改正前様式第3号（その2の1）に準拠して作成して下さい。
 ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認して下さい。
 ・認可時又は届出申請時には設置認可時又は届出時の教員として（専任教員（大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」）以外の教員（助手を除く）（改正後大学設置基準等の適用以前は兼任・兼担教員を含む。）を黒字で記入してください。
 ・その上で、各年度については、認可時又は届出時の数となっていない箇所は**赤字**として下さい。
 ・年齢は、**それぞれ年度の5月1日時点の満年齢**を記入して下さい。
 ・記載は、設置認可時又は届出申請にかけ「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」（改正後大学設置基準等の適用以前は「専任教員区分」）の順に記入して下さい。
 ・改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いて下さい。（大学院、高等専門学校等は除く）
 ・教員がサテライト等で不在の期間がある場合、その期間（年月日）を上段「学位」の下に記入して下さい。
 ・必要年度の年（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜追加して下さい。
 ・指定規程の改訂により、新旧がチェンジを並行して実施している場合は、新旧「担当授業科目名」の上段に変更後の科目名（新がけうらう）の授業科目名を記入すると、下段に変更前の科目名（旧がけうらう）の授業科目名を記入して下さい。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

- ・古屋博行教授が現職の都合により、就任年月日を令和3年4月1日から令和6年4月1日に変更。
- ・現勤務先の都合により、岩木和夫教授が就任辞退。後任の専任教員の配置を調整中。

【令和4年度】

- ・現勤務先の都合により、展広智教授が就任延期。担当科目は共同授業のため他の専任教員でカバーできるが、令和4年度中に教員審査を実施し、令和6年4月就任予定で調整中。

【令和5年度】

- ・現勤務先の都合により、荒井幸子講師が就任辞退。後任は教員審査済みの教員（鳥越一宏准教授）が令和5年10月に就任予定。
- ・現勤務先の都合により、宇津美秋助教が就任辞退。後任は教員審査済みの教員（石井英俊助教）が令和5年4月に就任。
- ・現勤務先の都合により、沖崎歩助教が就任辞退。担当科目は共同授業であるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。
- ・令和5年4月、湯本哲郎教授が就任。令和4年12月教員審査済。
- ・令和5年4月、石井英俊助教が就任。令和4年12月教員審査済。
- ・令和5年10月、鳥越一宏准教授が就任予定。令和4年12月教員審査済。

【令和6年度】

- ・現勤務先の都合により、展広智教授が就任辞退。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。
- ・自己都合により、進藤綾大助教が退職。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。

【令和7年度】

- ・自己都合により、石井英俊助教が退職。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。
- ・自己都合により、尾関あゆみ講師が退職。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。
- ・自己都合により、須藤遥助教が退職。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。
- ・退職された進藤綾大助教の後任として、小田中啓太講師が令和6年6月就任、令和6年8月教員審査済。担当予定科目の一番早い科目が令和6年9月開講のため教育上の問題はない。

(注)・変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。

原則としてA C教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません。

なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した

「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準等の適用にあたり、

「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります

- ・A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

- ・不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 基幹教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十一条第二項（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の基幹教員数について、「(2) -① 設置基準上の必要基幹教員数」及び「(2) -② 基幹教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) -① 設置基準上の必要基幹教員数

完成年度時における設置基準上の必要基幹教員数（α）	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	うち、完成年度時における設置基準上の専ら当該学部等の教員研究に従事する必要基幹教員数（α）の4分の3以上
30 名	15 名	12 名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第九項により算出される基幹教員数を記入してください。

- ・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) -② 基幹教員等数【大学・高専】

設置時の計画							現在（報告時）の状況						
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（A'）	助手（A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（B'）	助手（B'）
19	10	10	8	45	45	1	20	8	9	3	40	40	0
(13)	(5)	(4)	(1)	(23)	(23)	(1)							
現在（報告時）の完成年度時の状況							現在（報告時）の完成年度時の計画						
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（C'）	助手（C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（D'）	助手（D'）
20	8	9	3	42	42	1	20	10	8	7	45	45	1
[1]	[Δ2]	[Δ1]	[Δ5]	[Δ3]	[Δ3]	[]	[1]	[]	[Δ2]	[Δ1]	[]	[]	[]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。

- ・高等専門学校の場合、「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）」欄は、「うち専ら当該高等専門学校の教育に従事する者（「基（主）」及び「基（専）」の計）」として記入してください。
- ・なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、「設置時の計画」欄は「設置時の計画（改正前大学設置基準等）」とした上で、「専任教員」及び「助手」の人数を記入してください。
- ・また、「計（A）」の「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（A'）」欄には「－」を記入してください。
- ・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
- ・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	12 名	12 名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

【基幹教員全体】

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{42}{45} = \boxed{93.33} \%$$

【基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者】

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{42}{45} = \boxed{93.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{12}{40} = \boxed{30} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C'')}}{\text{設置時の計画(A'')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹(専任)教員辞任等の理由

(3) - ① 基幹(専任)教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由								
1	教授	古屋 博行	R3. 4	必修	早期臨床体験実習	②	現職の都合により、就任年月日を変更（令和3年4月1日→令和6年4月1日） 当該4科目については、古屋博行教授が兼任教員として担当する。（3）								
				必修	薬学入門Ⅱ（薬と病気の科学）	②									
				必修	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	②									
				必修	薬学総合ブレ研究	②									
2	教授	岩木 和夫	R3. 4	必修	チーム医療論	①	現勤務先の都合による就任辞退。後任教員は令和4年度中に教員審査を実施し、令和5年4月就任予定。（3）								
				必修	早期臨床体験実習	①									
				必修	後期臨床体験実習	①									
				必修	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	①									
				必修	薬局実務実習	①									
				必修	総合演習Ⅰ	①									
				必修	総合演習Ⅱ	①									
				必修	チーム医療論	①									
3	教授	展 広智	R4. 4	必修	生理解剖学実習	①	現勤務先の都合により就任延期。また、令和4年度中に教員審査を実施し、令和6年4月就任予定。（4）								
				必修	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	②									
				必修	薬学総合ブレ研究	②									
				必修	卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）	①									
				必修	卒業研究Ⅱ（課題解決型薬学研究・発展）	①									
				必修	チーム医療論	①									
4	講師	荒井 幸子	R5. 4	必修	処方解析演習	①	自己都合による就任辞退。後任教員は令和4年度中に教員審査を実施し、令和5年4月就任したため補充済み。（5）								
				必修	薬物治療学Ⅲ	①									
				必修	薬物治療学Ⅴ	①									
				必修	実務実習事前学習Ⅰ	①									
				必修	実務実習事前学習Ⅱ	①									
				必修	実務実習事前学習Ⅲ	①									
				必修	病院実務実習	①									
				必修	薬学総合ブレ研究	①									
				必修	卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）	①									
				必修	卒業研究Ⅱ（課題解決型薬学研究・発展）	①									
				必修	総合演習Ⅱ	①									
				5	助教	宇津 美秋		R5. 4	必修	チーム医療論	①	自己都合による就任辞退。後任教員は令和4年度中に教員審査を実施し、令和5年4月就任したため補充済み。（5）			
必修	薬理学実習	①													
必修	処方解析演習	①													
必修	実務実習事前学習Ⅰ	①													
必修	実務実習事前学習Ⅱ	①													
必修	実務実習事前学習Ⅲ	①													
必修	病院実務実習	①													
必修	薬学総合ブレ研究	①													
必修	卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）	①													
必修	卒業研究Ⅱ（課題解決型薬学研究・発展）	①													
6	助教	沖崎 歩	R5. 4	必修	総合演習Ⅱ	①	自己都合による就任辞退。後任教員は令和5年度中に教員審査を実施し、令和6年4月就任予定。（5）								
				必修	チーム医療論	③									
				必修	処方解析演習	③									
				必修	実務実習事前学習Ⅰ	③									
				必修	実務実習事前学習Ⅱ	③									
				必修	実務実習事前学習Ⅲ	③									
				必修	薬局実務実習	③									
				必修	病院実務実習	③									
				必修	薬学総合ブレ研究	③									
				必修	卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）	③									
7	教授	展 広智	R6. 4	必修	総合演習Ⅱ	③	現勤務先の都合により、展広智教授が就任辞退。担当科目は共同授業であるが、後任は令和6年度中に教員審査を実施し、教員審査済みの教員を配置予定。（6）								
				必修	チーム医療論	①									
				必修	生理解剖学実習	①									
				必修	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	②									
				必修	薬学総合ブレ研究	②									
				必修	卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）	①									
				必修	卒業研究Ⅱ（課題解決型薬学研究・発展）	①									
				合計（D）					後任補充状況の集計（E）						
				就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
				7	人	必修		57	科目	必修	38	科目	必修	8	科目
選択	0	科目	選択			0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目		
自由	0	科目	自由			0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目		
計	57	科目	計			38	科目	計	8	科目	計	11	科目		

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹(専任)教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

・「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。

就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹(専任)教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、

「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。

・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」

・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼任教員)が担当する(している)場合は「②」

・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	助教	進藤 綾大	R6.3	必修	チーム医療論	①	・自己都合により、R6.3.31付けで退職。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。（6）						
				必修	微生物学実習	①							
				必修	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	①							
				必修	薬局実務実習	①							
				必修	薬学総合ブレ研究	①							
				必修	卒業研究Ⅰ（課題解決型実学実習・基礎と応用）	①							
				必修	卒業研究Ⅱ（課題解決型実学実習・発展）	①							
2	助教	石井 英俊	R6.5	必修	総合演習Ⅰ	①	自己都合によりR6.5.15付けで退職。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。（7）						
				必修	チーム医療論	①							
				必修	薬理学実習	①							
				必修	処方解析演習	①							
				必修	実務実習事前学習Ⅰ	①							
				必修	実務実習事前学習Ⅱ	①							
				必修	実務実習事前学習Ⅲ	①							
				必修	病院実務実習	①							
				必修	薬学総合ブレ研究	①							
				必修	卒業研究Ⅰ（課題解決型実学実習・基礎と応用）	①							
3	講師	尾関 あゆみ	R7.1	必修	卒業研究Ⅱ（課題解決型実学実習・発展）	①	自己都合によりR7.1.31付けで退職。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。（7）						
				必修	総合演習Ⅱ	①							
				必修	チーム医療論	①							
				必修	後期臨床体験実習	①							
				必修	処方解析演習	①							
				必修	薬物治療学Ⅴ	①							
				必修	実務実習事前学習Ⅰ	①							
				必修	実務実習事前学習Ⅱ	①							
				必修	実務実習事前学習Ⅲ	①							
				必修	病院実務実習	①							
4	助教	須藤 遥	R7.3	必修	薬学総合ブレ研究	①	自己都合によりR7.3.31付けで退職。担当科目は共同授業であるため教員審査済みの教員でカバーできるが、後任は教員審査済みの教員を配置予定。（7）						
				必修	卒業研究Ⅰ（課題解決型実学実習・基礎と応用）	①							
				必修	卒業研究Ⅱ（課題解決型実学実習・発展）	①							
				必修	総合演習Ⅱ	①							
				必修	チーム医療論	①							
				必修	早期臨床体験実習	①							
				必修	生物系基礎科学	①							
				必修	生物系実習	①							
				必修	生化学Ⅰ	①							
				必修	生化学Ⅱ	①							
				必修	生化学実習	①							
				必修	生化学Ⅲ	①							
				必修	生化学Ⅳ	①							
				必修	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	①							
				必修	薬局実務実習	①							
合計（F）					後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
4	人	必修	46	科目	必修	46	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	46	科目	計	46	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注)・一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹（専任）教員**について、記入してください。
 （学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。）
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
 ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼任教員）が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
11	人	必修	103 科目	必修	84 科目	必修	8 科目	必修	11 科目		
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	103 科目	計	84 科目	計	8 科目	計	11 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{11}{45} = 24.44 \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した基幹（専任）教員等の状況

3 人

(注)・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した基幹（専任）教員数の合計数を記載してください。
・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人		必修	0 科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
			選択	0 科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
			自由	0 科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
			計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注)・ 定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼助教員）が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 古屋博行教授の就任年月日が変更になったが、就任までの担当予定該科目は、古屋博行教授本人が、兼任教授として授業を担当するため、学生の不利益はないと考えている。 ・ 就任辞退となった岩木和夫教授の後任には、教員審査済みの湯本哲郎教授が就任されたため、教育上の問題はない。 ・ 就任辞退となった宇津美秋助教の後任には、教員審査済みの石井英俊助教が就任されたため、教育上の問題はない。 ・ 就任辞退となった荒井幸子講師の後任には、教員審査済みの鳥越一宏准教授が令和5年10月就任予定。担当予定科目も一番早い科目が令和5年10月開講のため、教育上の問題はない。 ・ 就任辞退となった沖崎歩助教は、担当科目は共同授業であるため現状は教育上の問題はないものの、令和6年度中に教員審査済みの教員を補充予定。 ・ 就任辞退となった展広智教授は、担当科目は共同授業であるため現状は教育上の問題はないものの、令和6年度中に教員審査済みの教員を補充予定。 ・ 退職となった進藤綾大助教の後任は、担当科目は共同授業であるため現状は教育上の問題はないものの、令和6年度中に教員審査済みの教員を補充予定。その後、令和6年6月に教員審査済みの小田中啓太講師が就任。担当予定科目も一番早い科目が令和6年9月開講のため、教育上の問題はない。 ・ 退職となった石井英俊助教の後任は、担当科目は共同授業であるため現状は教育上の問題はないものの、令和7年度中に教員審査済みの教員を補充予定。 ・ 退職となった尾関あゆみ講師の後任には、教員審査済みの坂本沙祐里講師が就任されたため、教育上の問題はない。 ・ 退職となった須藤遥助教の後任は、担当科目は共同授業であるため現状は教育上の問題はないものの、令和7年度中に教員審査済みの教員を補充予定。

(注)・ 上記 (3) の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年10月)	県内の薬剤師が不足する地域への人材の輩出という本学科の設置に係る社会的ニーズに対応するため、都市部だけでなく、そうした地域における地域医療への貢献を学生に促す取組を検討すること。	【A C】改善意見 公益社団法人神奈川県薬剤師会および公益社団法人神奈川県病院薬剤師会と本学薬学部が、「社会が求める薬剤師の育成」に向け協力し、地域医療へ貢献する学術集会を開催するなど、学生にも参加を促し地域医療への参加意識を醸成する。(3) 公益社団法人神奈川県薬剤師会小川護 会長並びに公益社団法人神奈川県病院薬剤師会金田光正会長に本学薬学部の開設趣旨や「社会が求める薬剤師の育成」に向け共に協力することが確認された。地域貢献においては両薬剤師会の認定薬剤師の講習会等を本薬学で開催する予定である。また、第52回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会(パシフィコ横浜)には、学生の参加や開催手伝い等を通して学生に学会参加体験を行うことを予定している。 本学独自の市民公開講座に加え、両薬剤師会の市民公開講座の開催場所の提供や、教員が講師となり地域貢献を担う予定である。(4) 地域貢献においては日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会(パシフィコ横浜)において、学生の参加や開催手伝い等を通して学生に学会参加体験を実施した。本学独自の市民公開講座に加え、両薬剤師会の市民公開講座の開催場所の提供や、教員が講師となり地域貢献を担った。(7) 公益社団法人神奈川県薬剤師会、公益社団法人神奈川県病院薬剤師会、一般社団法人横浜市薬剤師会に対し個々に理事・一般会員に内覧会を兼ねて本学薬学棟へ招き懇談した。今後さらに各職能団体と連絡を密にて、地域医療貢献するための認定薬剤師の講習会や、研修会開催の協力を行うことにした。 令和4年度麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動神奈川大会において鈴木勉薬学部長が本学薬学部学生と共にパネルディスカッションに参加した。その大会の様子が神奈川県HP、YouTube厚生労働省で公開されている。薬物乱用防止啓発の意識づけを学生たちに促した。(5)(6) 「薬物クリーンかながわ」活動として本学薬学部の船田教授が「最近の薬物乱用について考える」と題し、講演を令和5年5月12日に行い、主に大麻と市販薬の過量服用について若者達に警鐘を鳴らした。(6) 上記の講演活動は大変好評であり成功裏に終わった。今後も積極的且つ継続して活動を実施したいと考えている。(7)	公益社団法人神奈川県薬剤師会および公益社団法人神奈川県病院薬剤師会と協議し、薬剤師過疎地域や地域医療の課題解決に向けた検討を開始する。(3)(4)(5)(6) 本取り組みについては、引き続き公益社団法人神奈川県薬剤師会および公益社団法人神奈川県病院薬剤師会と協議し、薬剤師過疎地域や地域医療の課題解決に向けた検討を継続していくことを確認した。(7) 県薬剤師会会長並びに県病院薬剤師会会長と神奈川県内における薬剤師過疎地域の情報を共有し、また地域医療の課題を検討する委員会または、ワーキング・グループを作り、地域医療の課題を列挙し、検討するための委員会設置について両会長に申し入れを予定している。(4)(5)(6) 地域医療の課題を列挙し、検討するための委員会設置について県薬剤師会会長並びに県病院薬剤師会会長に申し入れを継続して実施していく。なお、公益社団法人神奈川県病院薬剤師会会長は山田裕之氏に変更となっている。(7) 公益社団法人神奈川県薬剤師会、公益社団法人神奈川県病院薬剤師会と連携して、薬剤師過疎地域や地域医療の課題等を調査・研究を進める。令和5年度で臨床系教員も全員着任したため、地域医療の課題を検討する委員会や、ワーキンググループを設置する検討会を発足する。(5)(6) 地域医療の課題を検討する委員会、及びワーキンググループを設置する検討会を再度依頼していく。(7) 地域医療の課題を検討する委員会の設置に向け、引き続き話し合いを上記の職能団体と行う。(6)

認可時 (令和2年10月)	入学後の教育がより充実したものとなるよう、入学予定者に項す「入学前教育」の内容を精査し、適切に実施すること。	【届出】 遵守事項	「入学前教育」は、入学予定者に対し、基礎学力の補習・向上や、学習意欲の維持・向上、および入学後に必要となる専門知識の習得など、高大接続をスムーズに移行できるようにすることを目的としている。これを踏まえて「入学前教育」の内容を精査し、本年度は「入学前教育」として、「物理学入門」、「生物学入門」、「数学入門」、「化学入門」、「基礎英語」の5科目を入学予定者に課す。 「物理学入門」は、薬学を学ぶ上で必要となる力学や電磁気学の基礎を学習する。また、分子の性質や挙動を正しく理解するために必要な量子論についても導入的な学習を行なうことで、物理学と薬学との結びつきを意識した学習内容となっている。 「生物学入門」は、薬学基礎科目の生化学、生理学、解剖学、免疫学、微生物学の導入として重要であり、生物の謎を解明する研究や基礎科目の基盤となる。また、「数学入門」では、数学が医薬品の有効性、安全性の評価にどのように役立つかを学習する内容を含んでおり、単に計算方法だけではなく数学の考え方を学ぶことが、今後、薬剤師、医療従事者に必要とされる知識を理解する上で役立つ。「化学入門」では、化学物質の構造や反応性について学ぶことにより、医薬品を分子レベルで理解するために必要な化学の基本的知識を整理し、取得する。薬学部で行われる有機化学、薬品化学等の修学への動機づけとする。「基礎英語」では、薬学研究や医療現場での活動に役立てられる英語力の習得を将来の目標に置きながら、その基礎となる英語力を養う。そのために正確な英語の活用に不可欠である英文法の知識を確認すると同時に、初歩的な薬学関係の英語表現を学習する。 「入学前教育」の具体的な実施方法として、学習支援システム（manaba）による講義映像の閲覧および小テスト課題への取り組み（全8回）を5科目について実施する。これに加えて、3月末に「入学前教育のフィードバックとまとめ」として、オンライン双方向会議システムを利用した入学前スクーリングを実施する。 (別添資料②) (3)	履行済	
認可時 (令和2年10月)	教員の補充を必要とされた12授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた5授業科目については、確実に専任教員を配置すること。	【届出】 遵守事項	職位（教授）不適合となった専任教員が担当する予定であった5科目は、5月の教員審査に准教授として申請し直した。 また、残りの7科目のうち、1科目「早期臨床体験実習」は、すでに兼任補充し、対応している。(3) 職位（教授）不適格（兼任補充可）となった1名の教員は、就任を辞退したが、担当予定の7授業科目は、全て共同または、オムニバス科目であるため、兼任補充せずに、既存の審査済の専任教員が担当する。 また、職位（教授）不適格で5科目専任補充となった1名の教員は、現職の都合で本学の赴任が2022年度から2024年度に変更になったため、2022年度開講の1科目および2023年度開講1科目は、兼任教員として補充し、担当する。(4)	履行済	残り6科目中1科目は、2022年度、2科目は2025年度、2科目は2026年度の科目開講時までに兼任補充する予定である。(3) 職位（教授）不適格（兼任補充可）となった1名の教員の後任に、2023年度1名の専任教員を補充予定で、2022年度中に教員審査を受審し、受審後は当該教員の予定授業科目を担当する。 また、職位（教授）不適格で5科目専任補充となった1名の教員が担当する残り3科目の開講年度は、2024年度1科目、2026年度2科目であるため、科目開講時までに補充する。 (4)

認可時 (令和2年10月)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	【届出】 遵守事項	設置の趣旨で提出している「湘南医療大学完成年度後教員配置計画」に基づき、高齢者13名は退職する。本学の教員は有期雇用とし、初回は6年間、引き続き採用する場合は2年間として、教員組織の再編ができるような仕組みとしている。(3)	履行済	設置の趣旨で提出している「湘南医療大学完成年度後教員配置計画」に基づき、高齢者13名は退職する。本学の教員は有期雇用とし、初回は6年間、引き続き採用する場合は2年間として、教員組織の再編ができるような仕組みとしている。(3) 引き続き、設置の趣旨で提出している「湘南医療大学完成年度後教員配置計画」に基づき、高齢者13名は退職する。本学の教員は有期雇用とし、初回は6年間、引き続き採用する場合は2年間として、教員組織の再編ができるような仕組みとしている。(4)
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)	・教定育員内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	【AC】 指摘事項 (改善)	昨年度に引き続き、学生募集活動に努めており、令和4年度入学生は、66名で入学定員の0.5倍であった。入学定員充足率100%を大きく下回ったものの、昨年度入学者34名よりも前年比194%である。増減率は+94%となった。前年度提出した改善計画に基づき学生募集活動に取り組んだ結果、志願者数は、昨年度111人に対して、81人増加して192人になったものの、未だ本学部の特色や教育活動は周知不足で、薬学部受験意識について本学部と高等学校の間で乖離がある。更に、本学部の教育内容の充実を図り、全学上げて学生募集活動に真摯に取り組み定員充足に努める所存である。(4)	履行中	①ホームページの強化 本学の特色でもある、「臨床に強い薬剤師の養成教育」が、より浸透され、理解される教育内容の周知をホームページ上でわかりやすく伝えることができるように努める。また、高大接続教育（入学前教育）や、チューター制による少人数単位の学生支援なども本学の強みとしてPRする。また、教員研究活動、オープンラボでの研究効果など、研究者情報もホームページ上で随時更新して本学の魅力の伝え方を工夫する。 ②高校及び予備校訪問地域の拡大 神奈川県、東京都、静岡県内を中心にした高校や予備校の訪問活動を行っていたが、範囲を東海地方、北信越地方、北海道・東北地方など、東日本まで拡大して年間500校程度を訪問し、入学定員の約半数の確保を目標に募集活動を充実させる。 ③電子媒体での広報力強化 コロナ禍のため、WEB相談会、SNSでの発信など、時代のニーズに対応し、対面式以外の多様化した広報活動をより強化して展開する。 ④受験科目の変更と受験機会の増加 一般入試の受験科目を3科目選択から2科目選択に変更、また、英語試験の外部試験結果を導入する。但し、学力低下につながらないように、アクティブラーニングで本学部の求める学力を公表し、高校で必要最低限の学習を身につけた入学生を確保する。一方、入学前教育及び補完教育を実施し、薬学基礎及び実践教育にスムーズに対応できるように学生支援教育を徹底する。 また、一般入試の受験日を複数日設定し、受験しやすい環境を整え、受験者数の増加による定員充足の改善を目指す。(4)
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年) 追加	平均入学定員超過率が0.38倍と著しく低いですが、その原因分析の状況及び今後の改善策等について具体的に説明すること。	【AC】 指摘事項 (改善)	令和4年度入学生は、66名で入学定員の0.5倍であった。入学定員充足率100%を大きく下回ったものの、昨年度入学者34名よりも前年比194%となった。前年度改善計画に基づき学生募集活動に取り組んだ結果、志願者数は昨年度の111人に対して81人増加の192人になったものの未だ本学部の特色や教育活動は認知度が低く、高校及び受験者のニーズに応えきれていない。そのため、2022年度新入生アンケート調査（参考資料1）を実施し、2021年度の入試結果と合わせて現状を分析した結果、下記の点が改善を要するポイントであると考えてい	履行済	履行状況の分析を踏まえ、入学定員確保に向けて学生募集委員会等において改善策を検討した結果、 (1) 学校推薦型入試受験生（本学部第1志望の学生）の増加対策 (2) 本学部の教育内容等の魅力を発信するオープンキャンパスの実施とオープンキャンパスに参加できない受験生にも教育内容等が伝わるホームページの充実 (3) 一般入試受験者生の増加対策 (4) 学生募集・入試の情報の学内共有 の4点に絞り下記の対策を強化する。

る。

1 本学の重要な学生募集活動である「高校のガイダンス（1.9%）、進学フェア（0.9%）、オープンキャンパス（0C）（7%）」における薬学部の認知度が極めて低い。前年度の0C参加者は、受験対象外を含め全体で181名。0Cからの出願者は140名（出願率42.4%）で、入学者の36.4%しか0Cに参加していない。

2 学校推薦型入試（募集定員65名）の受験生は、23名（出願率35.4%）であった。つまり、本学部を第一志望として高校からの推薦を受けたいと思う受験生が極めて少ない。

3 本学部を第一志望とした入学者は40.6%であった。また、本学以外に受験した割合は83%（内、20.8%が3校併願）であったため、本学部入学生の多数は、他学の滑り止めであったと推測される。また、本学を未見学で受験した割合は、47.4%で、本学受験を決めた時期は、高3の秋から冬が最も多く56.7%であったことから、本学を第一希望とする学校推薦型入試の受験生が少ないことがわかる。

4 予備校・塾で本学部を認知して入学した割合が約半数の55.4%であったが、それらに通学する受験生へのアプローチが弱かった。

5 本学部に入試した理由に、①教育内容、②教育環境・施設設備の充実、③通学の利便性を上げた入学者が多くを占めた。また、入学者の83.1%が、グループ病院と連携した臨床実習が魅力であると感じているため、本学部の特色となる要素を周知する広報活動が弱いと感じている。

2021年度入試の分析結果から

・学校推薦型入試

受験者数23名 合格者22名（合格率96.6%）入学者16名（歩留率72.7%）

上記の割合で定員65名を確保するには、

受験者数94名×合格率96%＝合格者90名（歩留率72%）＝入学者65名

・一般入試

受験者数76名 合格者69名（合格率90.7%）入学者40名（歩留率52.6%）

上記の割合で定員55名を確保するには、

受験者数110名×合格率90%＝合格者100名（歩留率55%）＝入学者55名

∴ 推薦入試受験者数94名、及び一般入試受験者数110名の出願が必要となる。

また、上記の学校推薦型入試の受験者数94名を確保するには、215名

（0Cからの出願率42%）のオープンキャンパス参加者数が必要であると予測される。

今後の実施計画

履行状況の分析を踏まえ、入学定員確保に向けて学生募集委員会等において改善策を検討した結果、

（1）学校推薦型入試受験生（本学部第1志望の学生）の増加対策

（2）本学部の教育内容等の魅力を発信するオープンキャンパスの実施とオープンキャンパスに参加できない受験生にも教育内容等が伝わる

ア ターゲットの設定上での学生募集活動

学校推薦型（公募型）で受験生を確保するために、薬学基礎教育に必要な学力として偏差値50以上の高校で、評定平均値3.0以上及び通学可能圏、学業成績以外の高等学校の活動履歴なども勘案した入学生の確保を目標に、神奈川県、静岡県東部、山梨県及び東京都西部地区を重点エリアに特定して年内入試（学校推薦型入試）の募集ターゲットを選定し、募集活動を行う。

（ホームページ）

本学の特色の「臨床に強い薬剤師の養成教育」が、HP上で理解されるようにわかりやすく伝えることができるように努める。また、高大接続教育（入学前教育）や、チューター制による少人数単位の学生支援なども本学の強みとしてPRし、Q&Aのページにも力を入れ、受験生の疑問にタイムリーに答える。また、研究室の案内や研究活動、オープンラボや実験実習室の施設設備の紹介もホームページ上で随時更新して本学の魅力の伝え方を工夫する。その他、薬学部ランディングページの作成、臨床実務実習を行うグループ病院の紹介などのページを随時更新して、最新の情報の提供に努めている。また、コロナ禍のため、SNSでの発信や、オンライン相談を随時受け付けており、遠方に在住する方や説明会等に参加できない受験生等のために、対面式以外の多様化した広報活動に強化して展開する。

また、学校推薦型（指定校型）入試は、偏差値52以上で薬学部進学実績がある各都道府県高校499校を抽出し、その内155校を指定校に選定し、推薦の依頼を行った。

イ 高校および予備校・塾との関係づくり

（高校）

教員自ら重点エリアの高校訪問を行い、入学前教育の取り組みの状況や特別課外授業などを報告し、入学生の成長を見える化している。また、高校教員向け説明会の強化を図ったほか、高校単位で受け入れるバスツアー型オープンキャンパスを2校実施し、模擬授業、キャンパスツアーを含め、本学の「出張授業の案内」（参考資料2）から先方の希望に応じたプログラムなどを柔軟に行っている。

募集範囲を東海地方、北信越地方、北海道・東北地方まで拡大して500高校程度を訪問する予定であるが、コロナ禍でもあり、オンラインと併用して募集活動を行う。

（予備校・塾）

予備校に通学していた入学生が約半数いたことから、首都圏の予備校を中心に全国の予備校178校に入試過去問題集及びパンフレットを持参または送付し、本薬学部の魅力を周知することに努めている。

ウ 本学の魅力を伝える広報活動

（オープンキャンパス）

開設2年目で認知度が未だ低いいため、その対策として、オープンキャンパスを4月～9月の間に毎週計26回開催し、学科説明、模擬授業、体験コーナーを実施し、当日参加者の質問をまとめて次回の改善に反映させる取り組みを行った。（参考資料3）

結果、2022年9月現在、本人312名（内、高校3年生201人）及び

			ホームページの充実 (3) 一般入試受験生数の増加対策 (4) 学生募集・入試の情報の学内共有 の4点に絞って下記の対策を強化する。(4)	保護者234名が来校した。(昨年本人181名(内、高校3年生140人)、保護者115名) 前年対比172%と大幅に伸びた。 (ホームページ) 本学の特色の「臨床に強い薬剤師の養成教育」が、HP上で理解できるようにわかりやすく伝えることができるように努める。また、高大接続教育(入学前教育)や、チューター制による少人数単位の学生支援なども本学の強みとしてPRし、Q&Aのページにも力を入れ、受験生の疑問にタイムリーに応える。また、研究室の案内や研究活動、オープンラボや実験実習室の施設設備の紹介もホームページ上で随時更新して本学の魅力の伝え方を工夫する。その他、薬学部ランディングページの作成、臨床実務実習を行うグループ病院の紹介などのページを随時更新して、最新の情報の提供に努めている。また、コロナ禍のため、SNSでの発信や、オンライン相談を随時受け付けており、遠方に在住する方や説明会等に参加できない受験生等のために、対面式以外の多様化した広報活動に強化して展開する。 エ 受験科目の変更と受験機会の増加 一般入試の受験科目を3科目選択から2科目選択に変更、また、英語試験の外部試験結果を導入する。また、受験日を複数日設定し、受験しやすい環境を整え、目標受験者数の確保による定員充足の改善を目指す。 但し、学力低下につながらないように、本学部の求める学力を公表し、高校で必要最低限の学習を身につけた入学生を確保する。入学生には、入学前教育及び補完教育を実施し、薬学基礎及び実践教育にスムーズに対応できるように学生支援教育を徹底する。 オ 学内でのデータ共有 学生募集期間中(4-9月)は、オープンキャンパスやガイダンス状況を、また、入試期間中(10-3月)の受験者状況を速やかに、学長、学部長、学科長等にメールで報告。月次では、運営管理会議や理事会において報告。特に学生募集活動に関しては、入試・広報担当職員は学科の教員に情報を共有し、危機意識を有して迅速な改善ができるように意識改革を図っている。(4)
設置計画履行状況調査結果 (令和4年)	・教定育員内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	【A C】 指摘事項 (改善)	令和5年度薬学部入学生は、78名(入学定員充足率60%)であった。昨年度入学生66名よりは12名増となったものの入学定員充足率100%を大きく下回る結果となった。学生募集活動を強化したものの、本薬学部の特色、教育活動及び目指す姿を示すディプロマポリシー等と、高等学校や受験生などのステークホルダーが求める成果(薬剤師国家試験指導実績、就職実績等)に、新設校が抱える課題があると推察している。本薬学部の知名度と並び認知度の向上のための広報戦略を再構築して、薬学部受験生のイメージギャップを埋めるべく、根幹である本学のアドミッションポリシーに合うターゲットを絞り込み、薬学部志願者	履行中 ①入試区分の定員の見直しと特待生制度の設置 1) 本学を第一志望とする入学生の割合を増加させるために総合型選抜入試の占有率を上昇させる。昨年度定員5名だった総合型を20名(選抜区分15.3%)に増員し入学者を確保する。なお、文科省「大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究調査報告書」(令和4年度)によると、私立大学の選抜区分で総合型選抜入試は、約17%であったため、本学も同様の水準にあげた。 2) 特待生制度を設け、総合型選抜及び学校推薦型選抜の学科試験上位者(22名・入学定員の約17%)に対して6年間の授業料全額免除また

が、本学部のカリキュラムポリシーなど教育内容への関心が高められるように広報・募集活動を通じて、その内容を一貫して発信する必要があると認識している。(5)

は半額免除する。成績優秀な受験生に対して本学への早期出願から入学へと導き、安心して就学し、継続して修学できるように経済的支援を行う。

②県内外からの志願者獲得

1) 入学定員130名を確保するために、歩留まり状況や辞退率から逆算して資料請求、イベント参加者数の目標数値を設定する。資料請求数2,400件(前年度1,977件)、前年度121%増を目標、また、オープンキャンパス参加者数は600人(前年度312名)、前年度192%増を目標とし、出願者数460人(前年度243人)、前年度189%増を目標として、合格者数370人以上の中から入学者数=定員130人(歩留まり率35%以上目標)の確保を目標とする。

2) 上記の目標達成のために、神奈川県内の高校から90名(入学者数の70%)、神奈川県以外の地域の高校から40名(入学者数の30%)の確保を目標とする(前年度神奈川県内の高校からの入学者(68名・入学率約80%))。昨年は、コロナ禍で神奈川県外の高等学校及び予備校への訪問(500校)はできず電話等で対応したため、受験者増に大きく結び付くような成果を上げることはできなかった。今年度は、高校訪問のエリアを東日本全域で、特に私立大学薬学部が設置されていない地域(静岡県、山梨県、長野県)300高校を重点的に直接訪問して積極的にPRを行い、県外からの受験者数を2.6倍(前年度73名/243名を180名/600名)にする。

3) また、薬学部の特色や魅力をわかりやすく伝えるよう大学ガイドブックを毎年度作成し、配布を行っている。令和4年度は10,000部発行し、各種イベントなどで配布した。大学ガイドブックは大学の全体像を理解してもらうことを目的に、学部学科の情報は概要のみに留めていた。今年度は、教育内容をはじめとした学部・学科の詳細について理解を深められるように、薬学部の別冊のガイドブックを作成する。なお、令和5年度の大学ガイドブックは、前年度より多くの受験生に20,000配布する予定である。

③薬学部教育の特色のPR

本学薬学部の特色である「臨床に強い薬剤師の養成教育」を前面に打ち出し、その教育を実現するための「教育の質保証、並びに学生の質保証(学生サポート体制)」も公開し、本学の魅力をステークホルダーに伝える。

1) 個別チューター制度を置くことにより学生個々への学修・生活指導を行う。

2) 薬学共用試験(OSCE・CBT)試験および国家試験対策として、カリキュラム外活動(模擬試験、各種補講、過去問の取組み)を強化した学修支援策を行う。

3) 臨床薬学教育を実践するために、教員全体の53%を占める臨床系教員(21名:うち実務家教員14名)、および基礎系教員(20名)を配置して学修指導を行っている。

4) 薬剤師が患者を援助できるようになるための「実践的な教育」をPRする。

ア) 医療・医学の「知識」が学べる(症候・診断学など)。

イ) 患者や家族とのコミュニケーション(医療面接)を通して、

「情報収集能力」を養える（コミュニケーション論 病院実務実習など）。

ウ）薬学の専門的知識と突き合わせて、患者本位の薬物治療を医師と共にどのように進めていくかという「総合的な判断力」を養える（薬理学、薬物治療学など）。

エ）教員がグループ連携実習施設17病院に出向き、病院実務実習を実施する。

5）臨床に強い薬剤師の就職先を周知する。

薬局以外に、病棟薬剤師や治験（新薬開発実験）をコーディネートできる薬剤師の存在を広める。

6）「異なる研究分野との連携」を強化・推進できる「オープンラボ（共同研究室）」6室設置して研究環境を整えていることをPRする。

④WEBサイトでの広報力強化

上記の具体的活動内容を本学ホームページに盛り込みと同時に、令和5年度は、受験生に本学の教育内容を理解できるように「動画」などを用いてわかりやすく伝える。今後も随時情報を更新するとともに、資料請求に応じられるよう工夫を凝らす。また、オープンキャンパスや入試情報を広く告知するため、SNSや進学情報サイトを通じて本学部の特設サイトへの誘導も促進する。また、WEB相談会、SNSや動画での発信など、時代のニーズに対応したオンライン等による広報活動も強化して展開する。昨年以上にタイムリーな情報提供をネット経由で行うよう増強していく。

⑤オープンキャンパス・進学相談会
オープンキャンパスでは、学部・学科の紹介、キャンパス案内、施設見学、模擬授業、入試に関する説明会、在籍学生との座談会など、時期に応じて適宜プログラムを組み、受験生等に対して本学における教育環境を紹介している。また、オープンキャンパスでは、受験生や保護者の受験・進学における疑問や不安に対応できるように、個別相談会場を設けている。令和4年度は計34回で203人（オープンキャンパス参加者312人）の申込みであった。令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の状況で人数を制限して対面で開催した。令和5年度は、薬学部については、特設会場や個人相談会場を設け、周知を図り、390人程度の参加を見込んだ準備を進める。

⑥学外における説明会・相談会の実施参加

全国の受験生に本学をより深く理解してもらうことを目的に、学外の進学説明会・相談会に令和4年度は132回（高校101校並びに31会場）参加している。説明会・相談会では、本学専用のブースを設け、受験生・保護者等に個別に対して本学の特色や入試等について説明を行う。令和5年度は主に6月から10月にかけて、北海道・東北地区、関東・首都圏地区、北陸・甲信越地区の各主要都市で開催された、35日程の進学説明会・相談会に参加する。また、令和5年7月と9月に桐蔭学園高校の生徒が本学薬学部の研究室体験（研究シャドウイング）を予定しており、大学全体及び薬学部への理解を深めてもらい、その後の受験につなげられる活動を行う。

⑦高校教員向け入学説明会の実施
本学では、高校進路指導教員向けに説明会を毎年度6月に開催してい

					る。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響拡大を考慮し、小規模での説明会の開催であったが、2015年度から入学説明会に参加実績並びに指定校推薦対象高校493校への資料送付を送り、56校から参加があった。令和5年度も継続かつ回数を2回に増やして実施する予定である。この説明会では、主に学部の教育内容や入試制度の紹介を行っており、新年度の学生募集におけるキックオフという位置付けとしている。また、参加校からは多くの受験生が見込まれることから、令和5年度開催時は薬学部の特待生制度への理解も深めてもらい、本学部が養成する人材像や教育内容について紹介するとともに、薬学部専用のリーフレット等の配布を予定している。 ⑧高校への訪問活動 薬学部では、前述のイベントや説明会の実施・参加に加え、学部の教育内容の更なる認知向上を目的に、高校訪問活動を実施している。高校の進路指導部へ赴き、学部の紹介に加え、募集に関する案内を行うとともに、当該高校の生徒に興味を持ってもらえるよう簡易リーフレット、ガイドブックの配架依頼を行っている。訪問活動は、入試・学生募集担当2名及び薬学部の専任教員全員を配置し、本学の進学実績のある高校を中心に年複数回行っている。令和4年度は193校へ訪問し、そのうち80校出願に繋がり、52名の入学者となっている。令和5年度については、382校へ訪問（神奈川140、東京136、千葉39、静岡50、山梨17）、158名の出願を目標とする。また、長野県は27校を対象にし、学生募集担当が高校訪問を実施していく。高校訪問活動は学生募集に大きな効果を示していることから、本学部も積極的に宣伝していく予定である。 ⑨出張講義 本学部では「臨床に強い薬剤師を養成する医療大学」として、生命科学や自然科学及び臨床薬学の魅力を伝えることを目的に、高校生を対象とした出張講義を実施している。講義テーマは高校の要望に詳細に対応できるように薬学部で定め、令和5年は75テーマ程度の講義が提供可能である。出張講義は高校生や高校教員に対して、薬学部の教員が専門分野における講義を直接行うことは本学での学びを体感してもらう機会と捉えていることから、「薬学」という学問の浸透を目的に積極的に実施する計画である。（5）
設置計画履行状況調査結果 （令和4年）追加	平均入学定員超過率が0.46倍、収容定員充足率が0.43倍と著しく低い、その原因分析の状況及び今後の改善策、今年度の学生確保の状況等について具体的に説明すること。	【A C】 指摘事項 （改善）	■今年度（令和5年度入学）の学生確保の状況 令和5年度入学生募集において、入学定員充足率100%を目指し、前年度改善計画に基づき学生募集に取り組んだ。令和3年度（開設年度）入学生34名（入学定員充足率0.26倍）、令和4年度入学生66名（入学定員充足率0.5倍）に対し、令和5年度入学生は78名（入学定員0.6倍、前年比118%）であった。但し、定員充足率0.6倍ではあるものの、志願者数は、前年192名に対し、238名前年比124%と増加して前年を上回る結果を受けて、入学者は年々増加	履行中	■履行状況から踏まえた今後の活動 ○2024年度募集から2025年度募集 一般選抜入試に向けて、過去の出願実績校を中心に高校訪問活動を継続し、一般選抜試験の告知を行う。また、本学の学びの内容の周知、特に、基礎教育と臨床教育がコラボした実習指導、少人数教育での学修指導、臨床一貫型連携教育体制など、本学薬学部の特色、独自性を高校生が理解できるように情報発信を行う。また、入試制度改革として設定した「特待生制度」を活用とする入試の周知とグループ病院施設との連携教育体制について説明を行っている。

しており、入学定員未充足は改善の傾向にある。

■入学定員充足率未達の原因分析

(1) 本学薬学部認知度

本学は、2015年度に設置した保健医療学部と比べ、薬学部の認知度は未だ低迷している。そのため、志願者だけでなく、志願者が進路を相談する「高校教員」向けの大学説明会の実施や、高校訪問を通じて認知度向上に努めている。しかし、各大学知名度調査では、前年6.2%から8.7%(+2.5%)に上昇したが、競合他大学に比較し依然低い値である。(資料1「リクルートスタディサプリ登録者調査」より)

(2) オープンキャンパス等イベント参加者からの出願率の分析

本学薬学部へ志願度を高める機会である「オープンキャンパス(OC)」は、出願に直結する重要なイベントである。2022年4月入学者のうち、OC参加者は35名、入学率は45.4%であった。このデータにおいて、入学定員確保に必要な受験対象者を286名としてOC参加数の目標値を掲げたが、2022年4月から2023年3月までの受験対象者OC参加者は、前年101名に対して125名の微増に留まったことも定員未充足の要因である。

また、オープンキャンパス等本学主催の入学イベント等に参加せずに入学者は43名(入学者に対する割合55.1%)おり、そのうち、一般選抜入試からの入学者44名中24名(55.2%)の割合であった。

2022年度一般選抜入試合格者歩留まり率57.9%、共通テスト合格者歩留まり率8.3%、一般選抜入試合格者全体歩留まり率40.9%、一般選抜入試合格率90.7%のデータを踏まえ、2023年度一般選抜入試受験者数149名を目標としたが、前年76名から31名増加し、107名の受験生を確保したが目標数値には至らなかった。

(目標達成率71.8%)なお、一般選抜の入学者歩留率は2022年度の40.9%から12.2%減少して、28.7%の結果であった。つまり、一般選抜において本学薬学部を第一志望とする入学生は非常に少ないことがわかる。

(3) 入試区分別充足率からみた本学薬学部の志願度

入学定員130名の入試区分の定員は、学校推薦型選抜65名、一般選抜60名、総合型選抜5名である。2023年度学校推薦型選抜の入学者30名(区分定員充足率46.1%)、一般選抜の入学者44名(区分定員充足率73.3%)、総合型選抜の入学者4名(区分定員充足率80%)であった。

2022年に対して2023年度の受験者数が増加した入試区分は、学校推薦型選抜(23名→40名)、一般選抜入試(76名→107名)、大学入学共通テスト(43名→72名)の3区分である。このうち、学校推薦型選抜は、原則本学専願であるため志望度は高く、40名中30名が入学(歩留率75%)している。

しかし、一般選抜入試及び共通テスト利用入試の受験生は増加したものの、一般選抜入試の入学者は44名(歩留率47.3%)、共通テスト利用入試の入学者6名入学(歩留率10%)であるため、本学部を第一志望とする入学者は非常に少ない。

く。本学薬学部は現時点で国家試験合格率、就職先や就職率に関する情報開示できる要素が極めて少ないため、高校教員及び在学生の保護者に対して、その高校の出身者の大学入学後の成績や活動記録などを開示し、入学した学生が本学薬学部での成長をタイムリーに見られるように準備を進め、本学薬学部の教育の質を理解してもらえようとする。また、次年度実施予定のCBT/OCSE対策状況、グループ病院施設での薬学実務実習の計画などの情報も広く発信する。

現在、高等学校の進路指導指導は、総合型選抜、学校推薦型選抜入試を検討している薬学部等理系希望者の志望校絞り込みを高1から高2終了までに決定するスケジュールで指導している高校が多い。また、一般選抜においては、高校2年の秋期までに決定するスケジュールで指導している。また、第一志望校を2年次に決定させる高校の割合は、54%との統計がある。※ベネッセコーポレーション「高校教員アンケート調査」(2019年11月)

これらの調査からも、年々、入試が早期化する傾向は避けられない状況にある。そのため、本学薬学部は、1、2年生を対象とする春休み期間のオープンキャンパスを行い、本学志願者の早期確保と志願候補大学として認知してもらうために、まず、本学薬学部の教育内容を充実させることで学生の満足度が向上し、それらのポジティブな情報を積極的にHPやSNSを通じて発信することにより、入学者の確保につながることから、教育内容を充実させるべく、以下の取り組みを強化する。

- ・CBT/OCSE合格から国家試験に向けた対策及び支援

- ・「臨床に強い薬剤師」を目指した教育及び実習内容の充実

- ・アクティブラーニングを意識した授業の推進

- ・学生による授業評価の改善と活用

- ・研究マインドを育てる教育の充実

また、オープンキャンパスなどの機会には、薬学への興味関心を伝えるだけでなく、本学薬学部の学びの過程、研究活動、進学後の学修の大切さ、併せて医療従事者への適性など、高校生に自身の将来に向けた職業適性を考えさせる情報の提供も併せて伝えたいと考えている。

さらに、予備校に通学していた入学生が約半数いたため、首都圏の予備校を中心に全国の予備校178校に入試過去問題集及びパンフレットを持参または送付し、本学薬学部の魅力を周知することに努めている。

(5)

この結果からも、本学専願希望者である「学校推薦型選抜入学者」数及び比率を上げることが喫緊の課題である。そのため、本学薬学部を第一志望（専願）にしている学校推薦型選抜（指定校・公募）の受験者90名まで増加させる必要があり、その対策として、次の学生募集計画を遂行している。

■今年度の学生募集計画と現況
これまでの状況を踏まえ、改善策を検討し、以下の内容を実施する。

- (1) 早期受験者確保に向けた対策
- (2) 県内及び隣県の高等学校との連携強化
- (3) 学費負担軽減を目的とした試験制度の導入
- (4) オープンキャンパス実施内容の見直しと情報公開
- (5) 学生募集体制と情報の共有

(1) 早期受験者確保に向けた対策
受験生の早期志望校決定と年内入試の出願者増は本学保健医療学部でも顕著に表れており、総合型選抜、学校推薦型選抜での入学者確保が進んでいる。今年度の薬学部の総合型選抜入試では、前年5名の受験生に対して9名（+4名）の受験生（前年比180%）を確保している。また、第1回学校推薦型選抜入試では指定校型12名（前年19名）、公募型10名（前年10名）の状況であり、第2回学校推薦型選抜入試（1月）を含めると増加傾向にあり、前年度は47.4%、全入学生の半数を当該2区分の入試で確保している。本学薬学部としては、今後その割合が全体の70%程度まで増加することを予測し、「選抜する入試から入学後から育成していく入試」が定着することを念頭に、面接、小論文、基礎学力などを組み合わせた入試を行い、多面的に評価している。また、早期入学者の学力不足が進む可能性も踏まえて、入学前教育を行い、高等学校で学んだ強化の復習や補習、大学で学ぶための基礎学力・学習習慣を身につけるための課題に取り組んでいる。（資料2）

(2) 県内及び隣県の高等学校との連携強化

本年4月に実施した薬学部入学生アンケート調査結果（資料3）の中で、本学薬学部を志望理由として、①専門分野への興味（27.3%）、②教育環境・施設設備の魅力、通学の利便性（11.7%）、④教育内容の魅力、専門資格の取得（10.4%）を上げている。

この結果を踏まえ、本学薬学部を志願し入学した者の多数は、「薬学、化学への興味があり、自宅からの通学可能な範囲で整備された本学が目指す薬学教育、及び教育環境の下で薬剤師を目指したい」と考えられる。また、2023年度一般選抜入試及び大学入学共通テストの合格者のうち、辞退者の半数54名は、本学が位置する神奈川県以外の出願者であった。

以上のことから、「神奈川県内在住者」の受験層をメインターゲットとして捉え、本学までの通学可能な範囲（1時間）に位置する高等学校を中心に、本学薬学部の強みである「臨床に強い薬剤師教育」を行っている実績を説明して募集活動の強化を図っている。

また、学校推薦型選抜試験における指定校は、前年19名の出願実績校、神奈川県、東京西部、山梨県、静岡県などの高校538校を選定している。本学薬学部教職員は、「本学薬学部の教育に関心のある学生」に受験してもらうことが重要と考え、受験生一人ひとりに向き合い教育をより深く理解してもらうために、指定校、出願実績校、在学生出身校を中心に高校訪問を地道に行い、在校生の様子や学習状況、教育センターの活動報告、入学前教育から入学後の学習支援方法（チューター制）などについて説明を行っている。

その他、高校との学びの接続に一層力を入れ、連携授業として「出張講義」（資料4）や「公開講座」（資料5）、「大学見学・体験会」に加えて、本年度は、桐蔭学園高校の生徒に対して「研究室シャドウイング」と称して、「ここまで進んだ抗がん剤治療、がん専門薬剤師が教える治療最前線」、「アレルギー反応のいろいろ」、「生薬の化学分析を検出してみよう」「紫雲膏を調製してみよう」の4テーマで研究体験を実施し、本学の薬学、化学教育研究活動の普及と地域貢献活動を行った。同様に、「湘南鎌倉地区の高校生インターンシップ」においては、「大学に行こう研究室探究」を企画し、アスピリンを用いた実験や製薬の調合や使用法などについて実験人形を用いた体験を実施し、効果的に本学薬学部の認知度向上に努めている。また、その効果をより高めるに、2024度から入試・広報担当部門にアドミッションオフィサーの配置を予定し、高校生の主体的な進路選択に関わることでさらに学生募集を強化できると考えている。

なお、上記の取り組みの結果、高大連携は前年より1校増えて3校となり、連携校から1名の入学予定者を確保している。

（3）学費負担軽減を目的とした試験制度の導入

在学中の6年間を経済的に安心して学修できる環境を提供するために、年間授業料140万円全額または半額にする学費減免制度「特待生制度」（資料6）を今年度より導入した。総合型選抜、推薦型選抜入試（第1回）を終えた現在（※）までに半額免除者2名の合格者があり、定員確保に向けて一定の成果を出している。

※一般選抜入試Ⅰ～Ⅲ期及び大学共通テスト受験者も対象であるため。

（4）オープンキャンパス実施内容の見直しと情報公開

上記（3）に記載した、薬学部入学生アンケート調査結果の中で、本学の特色の一つである「グループ病院施設との連携」において、特に「臨床実習の魅力」を魅力に挙げている入学者が87%いることを受けて、今年度からオープンキャンパスで「病棟薬剤師を知る」というテーマで、隣接するグループ病院のふれあい東戸塚ホスピタル薬剤部と連携し、実際に就業している「病棟薬剤師」を招き、病棟での薬剤師の役割、実務、「専門薬剤師」「認定薬剤師」などのキャリアアップ情報と実際に病院薬剤部を見学するイベント

を毎月1回開催し、本学の臨床教育の魅力を伝える工夫を行っている。

2023年12月27日現在、今年度のオープンキャンパス参加状況として321名（前年312名）が来学している。（資料7）。特に高校2年生が122名（前年101名、120%増）来学しており、低学年の来学者も増加しているため、本学薬学部が存在が周知され始めていると認識している。

また、現時点の本学薬学部の資料請求者数は、3,617件（前年3,434件。うち高校3年1,571件（前年1,484件））に上る。特に受験対象者の高校3年生で神奈川県在住者からの資料請求者数は771名（46.6%）で、前年の610名（44.2%）から増加している。また、高校2年生の資料請求者数は、前年913名に対し、1,166名と253名増加している。その内、神奈川県在住者の資料請求者数は、596名（51.1%）で、前年356名（40%）から県内在住者比率が上昇している。

新型コロナウイルスの感染拡大時期からの影響や地方の18歳人口の減少などの影響もあり、県外からの受験者数が減少することが本学の資料請求者数の傾向から読み取れる。大学ジャーナルオンライン2021年2月5日掲載の記事においても、都道府県の大学への進学については、22.4%の高校が「減った」と答えており、今後も県外受験対象者からの情報収集、及び受験者の減少傾向は続くことが予測される。

上記の状況を鑑み、本学は、各進学サイトを通じた情報発信が、神奈川県内外からの資料請求数を増加させるための有効なツールである認識して強化している。HPでは薬学部紹介動画を掲載し、実際の教育内容や受験対策、教育支援、研究紹介などを公開している。更に今年度は新規に「在校生の動画やインタビュー記事」を公開しており、継続して新しいコンテンツをHPの他、LINE、X（旧twitter）などのSNSにも同時に情報を掲載している。

（5）学生募集体制と情報の共有

本学は、学長を兼任している理事長がリーダーシップを発揮できる体制であること、加えて、業務の有効性や効率性の向上が図られている本学の仕組みを活用し、今年度は、学長、事務局長、事務責任者並びに入試・学生募集担当者において、毎週水曜日午前8時から学生募集会議を開き、懸案事項や方針事項で報告、承認した事項について、タイムリーに運営管理会議、教授会、入試委員会等及び、関係する学部長、学科長、専攻長等に対して、学生募集に関連する重要事項を連絡配信し、情報を共有する体制を整えた。

それを受けて、広報、入試における窓口担当と各学科教員とも学内会議を定例的に実施し、オープンキャンパス実施報告、高校訪問報告、入試に関する報告と検討、募集状況に合わせた学科教員の対応策など、迅速に改善できる環境で業務を行っている。（5）

設置計画履行状況 調査結果 (令和5年)	収容定員充足率が0.43倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の見直しも検討すること。	【ＡＣ】 指摘事項 (是正) ■入学者の状況 資料1「2023年度-2024年度 入試状況等比較」にある(表1)「2024年度湘南医療大学薬学部入学者の状況」にて分析を行った。 本学薬学部の開設年度である令和3(2021)年度入学者数は34名(入学定員充足率0.26倍)、令和4(2022)年度入学者数66名(同0.5倍)、令和5(2023)年度入学者数は78名(同0.6倍、前年比118%)と増加を続けたが、令和6(2024)年度は志願者、受験者ともに減少した影響で、入学者数も62名(同0.47倍、前年比78%)と減少し、入学定員充足率も13%悪化した。 この結果を受けて、同資料(表2)「入試区分別 出願者数」より、特に令和6(2024)年度の出願者数は151名(前年243名、前年比62%)と減少した。また、(表2)とあわせて(表3)「入試区分別 入学者数」の結果から、前年比較で学校推薦型(指定校型を含む)及び一般選抜型の区分で出願者数と入学者数を大きく減少させる結果となった。 【入試区分ごとの出願者数、入学者数の状況】 ※〔 〕は前年、()は対比% ・総合型選抜：出願者9、入学者7〔5(180%)、4(175%)〕 ・学校推薦型選抜：出願者26、入学者21〔43(61%)、30(70%)〕 ・一般選抜：出願者72、入学者27〔120(60%)、38(71%)〕 ・大学入学共通テスト：出願者42、入学者7〔72(58%)、6(117%)〕 このうち減少が最も大きかった入試区分は一般選抜であり、出願者72名(前年120名、対比60%)と大きく減少した。また、大学入学共通テストも出願者42名(同72名、58%)となった。 (表6)「都道府県別の出願者状況」では、令和6(2024)年度入学における出願者数は、神奈川県が119名(前年170名、-51名)、東京都が16名(同38名、-22名)、千葉県が1名(11名、-10名)であった。また、(図7)「薬学部入学者 出身高校分布図(神奈川県)」より、令和6(2024)年度入学者の分布では神奈川県東部地域に集中しており、西部・県央地区からの入学生が全くいなかったことがわかった。 一方、(表4)「資料請求者数」では、<u>高校2年生からの資料請求数が増加している</u>。令和6(2024)年度の資料請求数は1,453件(前年1,166件、287件増)であり、神奈川県内からは、703件(同596件、107件増)の資料請求があることから、上記(図7)の考察と照らし、より地 ■教育内容の更なる充実 本学薬学部では、設置申請内容に沿ってカリキュラムを編成し、実践している。また、専任教員に変更が生じた場合は、適宜AC申請を通じて補充を行い、申請した組織内容を維持できる体制を整えている。 教員の質の向上に関わるFD活動に関しては、本報告書60ページ「その他全般的事項」に記載のとおり実施している。また、本学薬学部の教育水準を表すものとして、2024年4月に実施した本学薬学部の学生の全国模試結果を示す(資料2)。 本学薬学部の学生は、基礎系科目(受験科目：物理、化学、生物)(表7)に関し、3科目すべてで全	履行中 ■今年度の学生募集計画 本年4月に実施した、資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果より、本学薬学部の志望理由として、「通学の利便性(13.1%)」、「専門分野への興味(11.4%)」、「教育環境・施設設備の魅力(11.4%)」「大学での教育内容の魅力(11.4%)」が挙げられた。 この結果を踏まえ、本学薬学部入学者の多数は、「<u>薬学、化学への興味があり、自宅からの通学可能な範囲で整備された本学薬学部が目指す薬学教育、及び教育環境の下で薬剤師を目指したい</u>」学生であることがわかった。これを踏まえて、以下の活動を実行する所存である。 1. オープンキャンパスの改善 資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果より、「本学薬学部とグループ病院施設との連携」において「臨床実習」を魅力に挙げた入学者が85%いることを受け、今年度からオープンキャンパスで「<u>病棟薬剤師を知る</u>」というテーマで、隣接するグループ病院のふれあい東戸塚ホスピタル薬剤部と連携し、就業している「<u>病棟薬剤師</u>」を招き、<u>病棟薬剤師の役割、実務と病院薬剤部を見学するイベントを毎月1回開催し、本学薬学部の臨床教育の魅力を伝えている</u>。 2. 高大連携の強化 資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果における志望理由に挙げられていた「専門分野への興味(11.4%)」より、高校との学びの接続に一層力を入れ、その連携授業として「出張講義」(資料4)や「公開講座」(資料5)、「大学見学・体験会」に加えて、前年度に実施した桐蔭学園高校の生徒に対して実施した「研究室シャドウイング」を模範として、研究体験を実施し、本学薬学部の薬学、化学教育研究活動の普及と地域貢献活動を行う。同様に、「湘南鎌倉地区の高校生インターンシップ」においても企画・実施し、更なる本学薬学部の認知度向上に努めていく。 現在、高大連携校は4校あり、「鎌倉湘南コンソーシアム」にも加盟していることから、今後も本学薬学部の教育内容に理解を示す高校と接触し、高大連携校の締結を増やして志願者を獲得していく(資料6)。 3. 広報活動 ①デジタルツール情報発信 資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果より、「大学での教育内容の魅力(11.4%)」より、各進学サイトを通じた情報発信が、神奈川県内外からの資料請求数を増加させるための有効なツールとして強化する。HPでは薬学部紹介動画を掲載し、実際の教育内容や受験対策、教育支援、研究紹介などを公開している。更に今年度は新規に「在校生の動画やインタビュー記事」を公開しており、継続して新しいコンテンツをHPの他、LINE、X(旧twitter)などのSNSにも同時に情報を掲載している。 さらに高校生が、高校入学後に新たな大学を知る方法(スタディプラス社：2022年8月26日付記事)の上位
-------------------------------------	---	---	---

国平均を上回り、受験した大学29校中5位の成績であった。これは、薬学部設置から、1期生に対して教員が日々の学生の実情・ニーズを把握して、1年時から徹底的に寄り添った支援を続けてきた結果、基礎科目の学修が身についてきた結果と考えている。ただし、医療系科目（受験科目：衛生、薬理・治療、薬剤）（表8）に関しては、1科目は、全国平均を上回る結果であったが、その他2科目は全国平均以下の成績であった。

科目担当教員だけでなく学修支援チームの教員が補講等でサポートしており、今後、学生が苦手としている科目・分野を伸ばしていく。

本学薬学部は、学生間の距離も近く、講義の重点ポイントの確認、復習の機会を持っており、このような学生同士が同じ志を持って意識を高めあう環境作りも重要だと考えている。

本学の教育活動の評価を今後も外部に発信して、学生募集の一環とした。（6）

には、「SNSやYouTube、WEB等から知る」「学校の先生から聞く」であったが、その他に「親から聞く」「友だち、知人から聞く」といった項目もあった。高校生本人だけでなく、進学相談を受ける対象となる親御様、友人・知人、高校教員など多方面に向けて本学薬学部の魅力が伝わるコンテンツを企画し、発信していく。

②県内高校への広報活動の強化

資料1「2023年度-2024年度 入試状況等比較」の（表4）「資料請求者数」、（表6）「都道府県別の出願者状況」、（図7）「本学薬学部の居住地分布」、及び資料7「薬学部入学者 出身高校分布図（神奈川県）」より、令和6（2024）年度入学者の出身高校の位置する最寄り駅や入学者の居住地、本学薬学部が神奈川県東部に位置していることと、通学の利便性等の理由により、JR東海道線・京浜急行線・JR横浜線の3路線を中心とした神奈川県東部の沿線に、本学薬学部の入学者が集中していることがわかる。今後の広報活動として、電車広告等の掲載は上記3路線をメインに、さらなる知名度を上げるとともに本学薬学部への志願者数の増加を目指す。

また、本学薬学部の学生募集状況の課題の一つとして、現在も認知度の低さが挙げられる。その対策として、令和4（2022）年度より、神奈川県内の公立立高校（142校）の近隣の電柱に本学薬学部の広告を継続して掲載している。毎日の通学の景色の中に「湘南医療大学」の広告を掲載することで、高校生に印象を残し、本学薬学部の認知度向上の一助となると考えている。

③公開講座・出張講義の拡充

上記にある薬学部入学生アンケート調査結果（資料3）における志望理由に挙げられていた「教育環境・施設設備の魅力（11.4%）」及び「大学での教育内容の魅力（11.4%）」より、本学薬学部の教育内容を伝える機会として、公開講座を学内での実施だけにとどまらず、各地域の会館等を使用し、神奈川県を中心に近隣の東京都、静岡県計20か所（9月まで）で展開する計画を立てている。また、教育内容の魅力の発信として、見込みのある高校等への出張講義を行う。特に、入学者居住地の多くを占める神奈川県内の高校を中心に実施を強化していく。（資料5）

4. 新しい入試制度の導入

①特別指定校推薦

学校推薦型の入試区分の受験生数を増やすために、令和7（2025）年度入試から特別指定校推薦を導入する。学力優秀高校、薬学部進学実績校、並びに過年度の本学薬学部への出願者数の多かった高校を合わせて133校を指定した。本入学試験で合格した入学者は、授業料が全額免除となる。この入試区分では、30名の確保を目標としている。

②特待生制度

本学薬学部の競合校の一つである横浜薬科大学では、学費を減免する特待生チャレンジ選抜を実施している。本学薬学部においても、成績優秀かつ経済的に苦しい受験生を対象に、年間授業料140万円全額または

	半額にする学費減免制度「特待生制度」（資料8）を令和6（2024）年度入試に導入した。結果として、定員19名に対して15名の入学者があり、定員確保に向けて一定の成果を出している。 この結果を受け、薬学を学びたい意志があっても、修業年限6年間と長く、また理系科目の学修や実験等で忙しい薬学部では、アルバイト等も難しく学ぶことを諦めてしまう高校生も多数存在すると予測されたため、令和7（2025）年度入試では、すべての入試区分において、「授業料半額免除」、「授業料全額免除」の特待生制度利用を希望できる制度を継続し、さらにこの制度による定員枠を最大50名に拡大することにした（資料9）。 ③外国人留学生入試 今回の「指摘事項（是正）」に伴い、開設年度より定員充足率を達成していない状況を改善すべく、従前からの入試制度に加えて令和7（2025）年度より外国人留学生の募集を行い、5名程度の外国人留学生の確保に努める。成績上位者には特待生制度を導入し、優秀な学生の入学辞退を避けるべく定員を確保する。なお、導入にあたっては、文部科学省発信（6高参国第4号）の「外国人留学生の適切な受入れ及び在籍管理の徹底等について（通知）」を遵守し、安易に留学生を受け入れることなく、真に修学を目的とする留学生への教育指導及び適切な在籍管理を行う（資料10）。
	5. 入学定員に関する検討 湘南医療大学では、平成27（2015）年の開学時から、業務改善活動の一環として毎月PDG活動を取り入れ、入学定員を充足させるために、高校訪問、高校ガイダンスへの参加、オープンキャンパス、出張授業、授業改善などを積み重ねている（資料11）。 令和6（2024）年4月入学者まで、本学薬学部の入学定員充足率は100%を達成できていないが、資料1の（表4）（表5）の結果のとおり、次年度・次々年度に大学受験を検討する学年（高校2・1年生）の本学薬学部への興味・関心は高まっているものと推察できる。 また、令和5（2023）年度の1年間における、本学薬学部に対する高校からのガイダンス参加依頼は32件であったが、すでに令和6（2024）年4～5月の2ヶ月間で25件の依頼を受けている。これも、ガイダンス参加依頼を受けた高校で、本学薬学部への関心と期待が寄せられている客観的な数字であると推認できる（資料12）。 したがって、令和6（2024）年度入試では、出願者数・入学者数がともに減少したが、この現象は今後も続くものではなく、令和7（2025）年度入試以降は、志願者数を増加させられることが可能と捉えられる。 なお、資料13では、過去3年以内

				に入学定員を「減少」に変更した他大学の状況をまとめた。1大学を除き、<u>入学定員減の大学は、比例して志願者数も減らしていることが読み取れる。</u>これは、<u>入学定員減に伴う入試倍率の上昇を受験生が嫌がったこと、定員減による大学の経営難の印象・想像が難くないこと、などが考えられる。</u> 以上の点から、本学薬学部の学生が、薬剤師国家試験や就職の実績を提示できる前に、入学定員を「減少」に変更してもマイナスな要素が多いと判断している。（6）
設置計画履行状況調査結果（令和6年）	収容定員充足率が0.43倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、適切な入学定員の見直しを検討すること。	【ＡＣ】指摘事項（是正）	■令和7年度（2025年度）入学者確保の状況（表1） 令和7年度入学生募集において、入学定員充足率100%を目指し、前年度の改善計画に基づき学生募集に取り組んだ。令和3年度（開設年度）入学生34名（入学定員充足率0.26倍）、令和4年度入学生66名（同0.5倍）に対し、令和5年度入学生は79名（同0.6倍、前年比118%）、令和6年度入学生は62名（同0.47倍、前年比78%）、令和7年度入学生は49名（同0.37倍、前年比79%）と前年比減少となった。志願者数は、前年151名に対し170名（前年比112%）と上回ったものの、最終的に入学者が前年から13名減少する結果となった。（表2）「入試区分別出願者数」と（表4）「入試区分別入学者数」の結果より、出願者は、総合型選抜を除く入試で前年を超えた半面、入学者は学校推薦型選抜（指定校型）を除き減少となった。さらに、（表3）「入試区分別合格者」と（表4）の結果より、特に一般選抜型では、前年の合格者66名のうち入学者26名（歩留まり率39.4%）に対し、今年度68名合格者のうち15名の入学者にとどまった（同22%）。 【入試区分ごとの出願者数、入学者数の状況】 ※〔 〕は前年、()は対比% ・総合型選抜：出願者3、入学者3〔9(33.3%)、7(42.8%)〕 ・学校推薦型選抜：出願者35、入学者25〔26(134.6%)、21(119%)〕 ・一般選抜：出願者85、入学者15〔72(118%)、26(58%)〕 ・大学入学共通テスト：出願者42、入学者4〔42(100%)、7(57%)〕 一般選抜入試の入学者が前年57%と連続して減少している。 ■入学定員充足率未達の原因分析 （1）歩留まり率の低下 前年に引き続き、一般選抜型、及び大学入学共通テストの合格者の歩留まり率が低く、特に前年の一般選抜型合格者66名のうち入学者26名（歩留まり率39.4%）に対し、今年度68名合格者のうち15名の入学者にとどまった（同22%）。同様に、大学入学共通テストにおいても前年40名合格者に対し、入学者7名（歩留まり率17.5%）が、今年度35名合格者で入学者4名（同11.4%）にとどまり、6.1%減少する結果となっている。 一方、資料請求者数（表5）では、今年度は昨年に比べ、総数は	■令和7年度（2026年度入学者確保）の計画 左述（1）～（4）の令和6年度入学者の募集活動の振り返りより、単に資料請求者を増やし、ガイダンスに参加する回数を増やすという広く数多に広報活動を行っても学生は集まらないという反省のもと、ターゲットを神奈川県内の高等学校に絞り、2021（令和3）年度入学者からの4年間の入学者データをもとに入学者実績校、出願実績校（以下、「重点校」と言う。）に対して重点的に学生募集活動を行うこととした。その中で、高大連携の在り方を見直し、オープンキャンパスの充実を図るなど、本学独自の学生募集の在り方を創造していくこととした。また、2024年度は特待生制度および特別指定校を起爆剤に定員充足を目指したが、反応が芳しくなかったため見直すこととし、昨今の経済状況や高等学校無償化の動きも鑑み、広く数多くの学生を支援するために学費（授業料・施設設備費）の減額（169万円/年）を決定した。 〔取組1〕入学定員の変更 薬学部医療薬学科は、令和3年に開設し、医療人としての責任感、使命感、倫理観及び薬学の専門知識・技術を身につけ、患者や治療方法の多様なニーズに対応し、多職種協働によるチーム医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる人間を養成することを目的としている。 この教育目的のもと、入学定員130人、収容定員780人として学生募集を行い、学部の教育計画が履行できるように教員配置及び施設設備の整備を計画どおり実施して十分な教育効果を上げている。 しかし、学生募集に関しては、新型コロナウイルス禍での初年次学生募集の開始、本学薬学部の認知度の低さ、本学部の無実績、及び薬剤師の需給予測によるリスク増大、18歳人口の減少など社会的影響を受け苦戦している。特に、新型コロナウイルス禍の影響を受け、薬学部認可日が、2020（令和2）年10月23日と遅れ、予定していた総合型選抜入試等がほぼ実施不可となり、初年度の2021（令和3）年度入学生34名（入学定員充足率26%）であった。 以降の入学者数は、2022（令和4）年度66人（同51%）、2023（令和5）年度79人（同61%）、2024（令和6）年度61人（同47%）、2025

4,415件(前年3,643件、121%)、出願者数(表2)170名(同151名、113%)と増加したが、オープンキャンパス(表6)は前年微減の333名(同348名、96%)、入学者49名(同62名、79%)と減少という結果となっていることから、本学を第二志望以下として選択している学生が増え、第一志望まで引き上げることができなかったことが入学歩留まり率低下の要因である。

(2) 神奈川県内の出願、入学者の低下
都道府県別の出願状況(表11)、及び神奈川県内エリア別入学者(図12)から神奈川県内の出願・入学者は前年より出願者数117名(前年119名)、入学者数34名(同37名)の減少となった。これまで本学最寄駅の沿線市区町村である鎌倉市、逗子市、葉山町、三浦市は入学者がおらず、大学から距離のある、または路線の違う市区町村においては横浜市北部、川崎北部は、前年同様に入学者が獲得できなかったことから、地元である神奈川県内からの出願を増やすことが急務である。その一方で、薬学部のない、または私立系薬学大学のない都道府県3県より出願があった(長野4、静岡7、山梨1)。このことから、継続して出願者を輩出するよう関係性をより強化していくことで定員充足を目指す。

(3) 推薦型入試への対応
大学入試全体が総合型選抜、学校推薦型選抜をはじめ、年内に行われる入試への出願が増えてきている中で、2025年度入学者確保に向けて指定校推薦制度を変革し、特別指定校制度を導入した。それに伴い、学校推薦型選抜入試は、今年度25名入学(前年21名、4名増)したが、学校推薦型選抜入試の定員65名に対して充足率38.5%と、入学定員130名の半分を占める入試区分としては充足率が低く、入学定員未充足の要因の一つである。(表4)

また、年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)で定員6割確保という当初見込みが、総合型選抜の出願者数が今年度3名(前年9名)をはじめ年内入試での入学者は28名にとどまった。

(4) オープンキャンパス等イベント参加者からの出願率の分析

本学薬学部へ志願度を高める機会である「オープンキャンパス」は、出願に直結する重要なイベントである。2025年度入学者選抜の受験対象者(高校3年生と既卒者)のオープンキャンパス参加者(表6)は、前年120名のところ今年114名と微減であったものの、参加者の入学率(表7)は今年度24.6%(参加者114名、入学28名)であり、前年の35%(参加者120名、入学42名)を10%以上下回る結果となった。このことから参加者、及び入学者が減少してしまった原因は、オープンキャンパス参加者に対して十分な魅力を伝えられなかったことにあると考えられる。次年度に向けてはオープンキャンパスの内容を改善し、より受験生にとって魅力的な大学であることを十分に伝えていくことが必要であると考えられる。

(5) (表8)より、高校個別の薬学部の高大連携事業(出張講義、研究室訪問等)への2024年度実施校は7校、79名が参加したが、当該校からの入学は7名にとどまっており、高大連携事業の拡大が学生募集に繋

(令和7)年度49人(同38%)となり、入学定員充足に向けて入学者数が向上したものの、未充足の状況が続き、過去5年間の平均入学定員充足率は49.0%である。

本学部はAO期間中であり、まだ完成年度(2027年3月)を迎えていない。入学定員充足率が低位であっても教育体制に影響を及ぼすことはないものの、卒業時に身につけるべき能力、国家試験結果、就職率等、外部評価前の入学定員変更は、マイナス評価としてステークホルダーに対する信頼の損失につながる恐れがあると考えている。

しかし、本学部は、これまで以上に教員一人あたりに対する学生数を適切に定め、課題解決型授業を定着させるなど、教育の質の向上のために学部の目的に沿った、より効果的な教育効果を達成することを最優先に考えることが先決であり、本学部の信頼を高めることを考えて、入学定員を130名から30名減員し、100名に変更することとする(現在、収容定員変更申請中)。

[取組2] 学費等に係る変更
特待生制度と特別指定校(入学年次の授業料全額免除)を廃止する。
2025年度入試における特待生制度(授業料全額免除/半額免除)の希望者は全入試で延べ89名/出願者165名、内全額適用者1名、半額適用者6名を確定したが、最終入学者は、学校推薦型選抜(一般公募型選抜)で全額適用者1名、特別指定校型選抜で9名に留まった(表10)。
2025年度入試から導入した特別指定校については定員充足の起爆剤として期待したが、反応が芳しくなく、冒頭文にあるとおり、今後幅広く学生を支援する方向(学費等の減額)に変更する施策を実施することとする。

[取組3] 重点校との連携強化と高大連携事業の拡大

i) 重点校と選定方針

- ・ 2022~2024年度の本学薬学部の入学者+2025年11月末の出願者の合計が2以上の高校
- ・ 薬学部合格者の延べ人数が20以上の神奈川県内の高校
- 計73校を選定し、指定校推薦枠の保証・拡大等の優遇を図ることとする。

(参考) 本学は薬学部の他に保健医療学部(看護学科・リハビリテーション学科)を併設しており、3学科共に重点校として選定した31校の高等学校を3学科共通重点校として、より太いパイプ作りに取り組むこととする。

ii) 高大連携事業の拡大

- ・ 出張講義、医療系セミナーの実施等
- ・ 出張医療系進学ガイダンスの実施
- ・ 出張入試対策セミナーの実施
- ・ 研究室訪問(ジョブシャドウイング等)の受け入れ
- ・ 神奈川県コンソーシアムに加盟(インターンシップの受け入れ)
- ・ 高等学校探究活動支援(探究学習、部活動・委員会の探究活動への支援・連携等)
- ・ 大学見学会の受け入れ
- ・ 高校教員との合同研修・意見交換会の実施

[取組4] 重点校訪問の充実

2022~2024年度入学者、及び2025年

がっていないように見えるが、事業への参加者がすべて1、2年生であるため成果は翌年、翌々年の入試に反映されるものと期待している。広く数多に広報するオープンキャンパスとは性質を異にする高大連携事業を企画・拡大し、事業への参加が入学に繋がるように事業内容を精査し改善しなくてはならない。

(6) (表9)より、薬学部として参加した業者を介したガイダンス・出張講義31件に対し、当該校からの出願者が8名と他学科(看護学科: 38名/15件、リハビリテーション学科: 23名/6件)と比較して薬学部教員が参加した回数に見合った出願者数の増加が認められず、戦略変更の必要性が浮き彫りになった。

(7)

度出願者データより入学実績校、出願実績校(以下、「重点校」と言う。)に対して重点的に高校訪問を行い、太いパイプを構築する。訪問スケジュールとしては、前年1月～2月に3学科共通の重点校31校の訪問を事務職員が実施する。その後、4月以降随時各学科の教員による各学科の重点校訪問を実施する。また、教育内容、カリキュラム、国家試験対策、就職・進学支援、学費・学生支援に関すること等、訪問時に伝えること徹底するため、教員用の「訪問マニュアル」を作成し、さらに訪問後の報告(学生募集支援システムへの入力)を徹底する。

[取組5] オープンキャンパスの充実

前年度の課題として挙げた「進学サイト等を活用し、資料請求者は増加したが学科によってはオープンキャンパス参加者が減り、また、オープンキャンパス参加者が増加しても出願への歩留率が低下している分析結果がある」ことを受け、オープンキャンパスから出願への歩留率をどう上げるかを検討した。従来の入試広報室が概要を企画するオープンキャンパスではなく、学長のリーダーシップのもと学科の教員主体で創り上げるオープンキャンパスとすることをコンセプトに企画を進めていく。

＜オープンキャンパスの骨子＞

- ・模擬授業と連動した実習体験とのコラボレーション

- ・年間6回の開催においてすべて異なるテーマの模擬授業を公開

- ・オープンキャンパスにおける模擬授業や実習体験への参加が医療に関する興味・理解を深めることにつながり、ひいては医療総合型選抜・学校推薦型選抜の課題文型小論文の回答に活きるような参加者への支援を行う。

- ・低学年層や保護者をターゲットにしたイベントを開催する。

- ・実習体験を中心とした内容を充実させ、オープンラボの見学、研究内容の紹介を行い、入学後のイメージができるよう体験内容を充実させる。特に体験ではガウンを着用した体験など薬剤師になったイメージができる内容を行っていく。

- ・他大学のオープンキャンパスの視察やパンフレットを取り寄せるなどして、競合大学の情報収集も行い、取捨選択しながら本学独自のオープンキャンパスを創り上げていく。

- ・保護者対応として、保護者向け説明コーナーを設け、学費・入試動向、国家試験対策について説明する。

- ・希望者には、隣接するグループ病院及び老健施設を見学する時間を設け、現場で働く職員からその場で話を聞くなど、実際の医療・福祉分野において、卒業後の将来の職業観を大きく膨らませるような企画を行う。

- ・来場者に対し、在校生の補助スタッフが学生目線で授業や学内での様子を伝えることで場感を感じてもらえるイベントにする。

[取組6] 入試制度改革

「医療人としてふさわしい人材を選抜するために」一人ひとりの資質、適性、能力を判断できる内容として、年内入試(総合型選抜・学校推薦型)における基礎学力試験を廃止

し、「医療や科学に関連する課題文（300字程度）のをもとに、自分の意見や考えを述べる」という誰でも記述しやすい形式にする。教科・科目に係る学力については、高等学校の調査書の内容を重視する。この変更に対する対策として、オープンキャンパスにおいて「小論文対策説明会」を開催し、高校教員向けの説明会も複数回開催する。

以上の〔取組４〕〔取組５〕の視点から、オープンキャンパスに参加し、医療に関する興味・理解を深めることによって、それがおのずと課題文型小論文の対策となることを広報し、オープンキャンパス参加が者を出願に繋げていく。

〔取組７〕公開講座・地域連携活動の充実

- i) 高校生のための公開講座（資料1）
- ii) 市民公開講座：5回実施（資料2-1）
- iii) 地域連携活動：4回実施（資料2-2）

〔取組８〕ホームページやSNS・動画を活用した広報の充実

ホームページやSNS・動画を活用した広報を充実させ、大学理解、教育・研究への理解を促進する。

- i) 受験生応援サイトの改編・充実：スピード感のある情報更新に努める。

- ii) 高校教員向けサイトの新設：「高大連携事業」「入試情報」「各種説明会のご案内」等

- iii) ホームページをととした定期的な講義動画の公開

＜期待される効果＞

・分野理解が深まり、興味・関心付けが期待できる。

・ホームページにコンテンツを掲載するのでホームページの充実にも繋がる。

・総合型選抜や学校推薦型選抜の小論文対策に活用することも可能。

・SNSとの相互連携により本学の広告となり、若年層の獲得に繋がる。

・県外学生のコンテンツ利用率が高まる。

- iv) 本学の学生支援体制（チューター制、Sプログラム）は他学に比べても充実していると自負するところであり、その魅力をホームページやSNS記事投稿により強く発信していく。

〔取組９〕本学のブランド力の向上

- ・本学にしかできない医療系複数学科の連携（チーム医療）を体験・実感できる環境

- ・臨床実習をサポートするグループ病院の存在

- ・入学前教育、チューター制による手厚い学修支援

〔取組10〕来校者動向、志願者動向分析

- ・進学サイトから報告される資料請求数等を中心に月1回の集計、分析を行うとともに他大学の動向調査

（オープンキャンパス情報や入試日程・科目等）から現在の本学の状況を鑑み、定員確保に向けた計画を立案していく。

〔取組11〕予備校へのアプローチ

2025年度は次の計画を履行する。4～5月は河合塾など大手予備校を訪問（理由は予備校調査を開始する時期）。5～6月は個別指導塾を訪問

					(理由は通学生が決定する時期)。 6-7月には個別指導塾を中心に県内予備校を訪問(理由は夏期講座申し込み時期)。 [取組12] 外国人留学生の募集 留学生担当者を本学入試広報室の職員として採用し、留学生の薬学部志願者動向等の調査・研究を行い、今後の海外留学生の募集戦略を検討する。6月のEJU(日本留学試験)を受験する方を対象に、4月より特に理系進学が多い内都日本語学校をターゲットに訪問する。また、6月頃より日本語学校内で個別説明会を実施するので、4-5月を中心に説明会への参加を交渉し、実施する。 (7)
--	--	--	--	--	---

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6) (7)」と記載してください。

【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<薬学部 医療薬学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

湘南医療大学薬学部ファカルティ・ディベロップメント委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

年3回実施（4月、9月、2月） 参加教員：教授3名、講師2名、助教1名

c 委員会の審議事項等

特になし

② 実施状況

a 実施内容

①大学全体におけるFD・SD研修会

本学薬学部のFD活動においては、設置申請書類作成時に開設初年度から完成年次以降のFD活動長期計画を立案し、毎年度の活動に取り組んでいる。その活動内容に関しては、大学全体として行うべきものと、学部独自で実施すべき活動内容に分けて実施している。令和6（2024）年度における薬学部FD活動の重点テーマを「①授業評価等の結果を活かした授業改善、教育活動改善への活用、②FD・SD研修の充実（教育の質の向上、自律的な学生を育てるための取組み、臨床教育に対する意識の共有）、③キャリア支援と地域社会への貢献」と定め、ふれあいグループ全体研修会における大学部会の活動の一部、および年2回実施しているふれあいグループの医療・教育研究会における大学部会の活動として全員参加で実施している。また、学部独自に定めた研修会及び勉強会の機会を設け、外部講師を招聘して実施している。

一方、本学のSD活動では、2ヶ月毎に全体研修会を行っており、教職員の資質向上を図っている。また、原則年2回、学校法人の設立母体である医療法人グループと合同で「医療・教育研究会」を開催しており、教職員以外の医療関係者やグループ内の専門学校職員も参加し、臨床現場の意見や他の教育機関の手法も大学運営に反映できるように取り組んでいる。これらの研修会には毎回事務職員が全員参加し、持ち回りで事例研究等の発表やグループワークを行っている。毎回の研修会後には報告書を作成・提出している。

②薬学部独自のFD研修会

1. 知識構成型ジグソー法の実践例～授業と国家試験対策での紹介～
（湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科、中村壽志講師）
2. 科研費獲得の方法とポイント
（湘南医療大学薬学部、塩田清二教授・曾川甲子郎助教）
3. 横浜市薬剤師会の薬学生向け実務実習研修会について
（横浜市薬剤師会 実務実習担当常務理事、中里裕之氏）

b 実施方法

①大学全体におけるFD・SD研修会

- ・【FD】研究活動における不正行為の防止について
- ・【FD】経常費補助金・ICT活用技術の向上：ICT・セキュリティ教育
- ・【FD】学生相談（ハラスメントのない快適なキャンパスの実現）
- ・【SD】理念・教育目標：～教育職員（新任職員含む）に向けた教育～
- ・【SD】5つの活動の実践（1）：部門PDC
- ・【SD】IR部門の強化
- ・【SD】2024年度の学生募集活動：①学生募集活動と経過、②高大連携活動の状況

②薬学部独自のFD・SD研修会

- ・【FD】薬学部の教育目的、教育方針及び研究のありかた：
～3つのポリシー、研究の実態と科研費等競争資金の採択状況～
- ・【FD】休退学者の減少：学生が主体的に学べるための理解しやすい授業の工夫
- ・【FD】OSCE・CBT試験対策：Sプロジェクトの実行からOSCE・CBT試験合格に向けて
- ・【FD】私立大学改革総合支援事業：
～授業評価等の結果を活かした授業改善、教育活動改善への活用～
- ・【FD】成績低迷者への学修指導方法
- ・【FD】自己点検・評価の厳格化：薬学教育評価機構のプレ受審に向けて
- ・【FD】学修支援・CBT/OSCE対策支援：分析と評価

- ・【SD】5つの活動の実践(2):業務改善(課業表)、全体研修会、朝礼、6S活動
- ・【SD】入学定員の確保:現在までの募集活動・入試の分析と評価
- ・【外部FD】知識構成型ジグソー法の実践例 ~授業と国家試験対策での紹介~
- ・【外部FD】科研費獲得の方法とポイント
- ・【外部FD】横浜市薬剤師会の薬学生向け実務実習研修会について

c 開催状況(教員の参加状況含む)

①大学全体におけるFD・SD研修会【令和6年度実施分】

- ・4月24日(水)、6月16日(日)、9月18日(水)、11月27日(水)、2月16日(日)、3月19日(水) の計6回
- ・参加状況:教員122名、職員28名

②薬学部独自のFD研修会【令和6年度実施分】

- ・5月29日(水)、7月24日(水)、9月11日(水) の計3回
- ・参加状況:教員42名

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

湘南医療大学は、医療グループ(ふれあいグループ)の教育施設として「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念に基づき、高度な知識と技術、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育研究を通じて地域社会に貢献することを目的としている。この理念のもと、薬学部医療薬学科は、医療人としての責任感、使命感、倫理観、薬学の専門知識・技術を身につけ、患者や多様な治療ニーズに対応し、多職種連携によるチーム医療に積極的に参画できる薬剤師の育成を目指している。特に、平成25年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿って、5つの学修教育目標を掲げ、薬学教育を実践している。これらの理念、目的、教育目標は、大学案内冊子や大学ホームページで公表されている。

薬学部は、地域における需要に応えるため、教育研究上の目的に基づき、人材養成上の三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を設定している。これらのディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づいて配置された開講科目の関連性は、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーによって明確化されている。三つの方針に関する情報は、大学案内パンフレット、学生便覧、シラバス、入学選抜要項、大学ホームページに掲載・公表されている。

教育研究上の目的と三つの方針に関する定期的な検証は、本学部がまだ完成年度を迎えていないため実施段階ではないが、これらの目的と方針は適切であると考えている。完成年度である2027年4月以降に修正が可能となるため、2025年度以降、「薬学部自己点検・評価委員会」と「薬学部第三者評価委員会」を中心に定期的な検証を実施していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・令和7年4月11日 公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和3年11月に、日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、適合の判定を受けた。
- ・令和10年に、薬学教育評価機構による認証評価を受審予定。

(注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和 7 年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [・ 公表後 2 ～ 3 ヶ月以内 ・ 公表後 3 ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他 ()]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。